

現代建築における生物を参照した比喩表現に関する研究
— 『新建築』 1950 年から 2020 年を分析対象として —

東京理科大学
工学部 建築学科
坂牛研究室

4119030 川岸 美伊

指導教員 坂牛 卓

Abstract

A STUDY ON METAPHORICAL EXPRESSIONS REFERRING TO LIVING THINGS TO EXPLAIN CONTEMPORARY ARCHITECTURE

—Analysis of "Shinkenchiku" published between 1950 and 2020—

Mii KAWAGISHI

The purpose of this study is to investigate and discuss metaphorical expressions referring to living organisms to describe contemporary architecture.

Metaphorical expressions referring to living organisms were extracted from the explanatory texts of architectural works introduced in architectural magazines.

The results are as follows:

1. The proportion of metaphorical expressions referring to living organisms to the number of works published in each decade is higher in the 1960s and 1970s, and from the 2000s onward.
2. Expressions classified as a "tree" category had the largest number(18). In addition, a total of six expressions categorized as "breathing (or as if breathing)" were extracted, all of which were seen after the 2000s.
3. The expressions categorized as "people" were more likely to be used for the overall appearance of the building, while those categorized as "trees" tended to be used for a floor plan and sectional plan.

目次	
梗概	p. 007
発表資料	p. 011
第 1 章 序論	p. 023
1. 1. 研究の背景と目的	
1. 2. 既往研究	
1. 3. 研究対象	
第 2 章 研究方法	p. 027
2. 1. 分析対象	
2. 2. 分析方法	
第 3 章 研究結果	p. 031
3. 1. 各要素の分類・整理	
3. 2. クロス集計表による対応関係の分析	
第 4 章 考察および結論	p. 043
4. 1. 考察	
4. 2. 結論	

参考文献	p. 048
謝辞	p. 051
データシート	p. 055

梗概

現代建築における生物を参照した比喩表現に関する研究
—『新建築』1950年から2020年を分析対象として—

坂牛研究室

4119030 川岸 美伊

1. 研究の背景と目的

比喩表現は自身の意図をより鮮明に伝達する手段として広い分野で日常的に用いられる。建築においては、ル・コルビュジェの「住宅は住むための機械である」^{注1)}という代表的な表現をはじめ、古くから比喩表現が多く利用されてきた。

比喩表現の中でも特に、建築などの非生物をまるで生物であるかのように、生物を参照して比喩的に表現することがある。非生物を生物であるかのように解釈することは表現の幅を広げるための有用な手段として用いられている。

本研究では、現代建築家の言説に見られる比喩表現のうち、生物を参照しているものに注目する。その生物や内容、説明対象、それらの関係や変遷を調べ、比喩表現の観点から現代建築の時流の一端を明らかにすることを目的とする。

2. 既往研究

現代建築作品における言説に見られる比喩表現を扱った研究としては、山根らによる比喩表現と建築形態の関係性、通時的特性に関する研究^{注2)}や、原田らによる内容と対象部位の対応関係に関する総体的な考察^{注3)}が挙げられる。しかし生物を参照にした比喩表現のみに着目した研究はない。

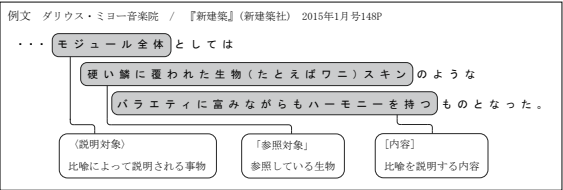
3. 研究対象

雑誌『新建築』（新建築社）の1950年から2020年までに発行されたもののうち、10年ごとに1月号から12月号の12冊8年分（計96冊1282作品）^{注4)}から得られる言説を対象とする。なお、本研究では現代建築を対象とするため、1950年以降を扱う。

4. 研究方法

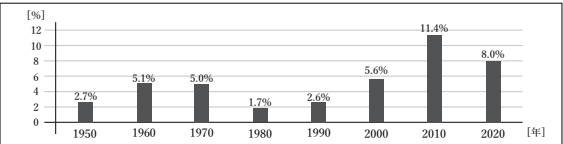
4.1. 分析対象

比喩表現を、図1のように参照している生物「参照対象」、比喩表現によって説明される〈説明対象〉、その比喩表現の「内容」の3つの要素に分けて分析する。



▲図1 比喩表現の抽出例

▼表1 掲載作品数に占める抽出された比喩表現の年代毎の割合



▼表2 「参照対象」のパターン

「参照対象」のパターン	言語構成		例文	計
	[A]	「生物の種類」 + 「用言(生物に用いられる表現)」	クジラが海原を躍動するかのよう	10
	[B]	「生物の種類」 + 「用言(生物以外にも用いられる表現)」	胎児が浮かぶような	8
	[C]	非生物 + 「用言(生物に用いられる表現)」	羽衣が…舞い降りたような	1
	[D]	「生物の種類」のみ	樹木のように	35
	[E]	「用言(生物に用いられる表現)」のみ	呼吸する	19

4.2. 分析方法

4.2.1. 各要素の分類・整理

図1の定義に基づいて比喩表現を抽出したのち^{注5)}、「参照対象」、「説明対象」、「内容」を分類・整理する。

4.2.2. クロス集計表の作成

次に「参照対象」と「説明対象」のクロス集計表、「参照対象」と「内容」のクロス集計表をそれぞれ作成し、それらの対応関係を見る。

4.2.3. 総体的分析・考察

最後に2つの分析から得られた情報をもとに、現代建築における生物を参照した比喩表現の変遷を考察する。

5. 研究結果

調査した全1282作品のうち抽出された比喩表現の総数は73個であった。各年代の掲載作品数に占める抽出された比喩表現の数の割合を表1に示す。1960年・1970年と2000年以降の割合が高く、いずれも5.0%を超えた。

5.1. 各要素の分類・整理

5.1.1. 「参照対象」の分類

まず、「参照対象」はその表現の言語構成から表2のように5つのパターンに分類された。さらに、パターン[A][B][D]の表現に含まれる「生物の種類」については表3^{注6)}の通りKJ法的に分類・整理を行った。また、特定の生物の種類が記載されていないパターン[E]については、その「用言」の年代別一覧を表4に示す。

さらにその「生物の種類」内において、「樹木」に分類される表現が最も多く見られ「生物」全体の33.3%を占めた。また、「動物」に分類される表現の中では「人」に分類される表現が最も多く見られ、「生物」全体の14.8%を占めた。パターン[E]に含まれる「用言」内において「呼吸する」と

▼表3 パターン[A][B][D]に含まれる「生物の種類」の分類

分類該当個数	生物 (54)													その他 (9)
	動物 (23)										植物 (22)			
	人 (8)	鯨 (3)	鳥 (4)	亀 (1)	蛙 (1)	魚 (2)	とんぼ (1)	甲虫 (1)	尺取虫 (1)	怪物 (1)	樹木 (18)	草 (4)		
使用例	「美人」「両腕」「胎児」	「クジラ」	「ひよこ」「鳥」「母」「鳥」	「亀の甲羅」	「カエル」	「小さな魚」「魚群」	「トンボ」	「甲虫の背」	「尺取虫」	「異形の怪物」	「樹木」「枝」「幹」	「蔓草」「群棲植物」	「生物」「生命体」「細胞」	

▼表4 パターン[E]に含まれる用言の年代毎一覧

1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010	2020
該当なし	「着物の裾や袖からチラリと見える」	「身を伏せる」	該当なし	「足を下ろす」「舞う」「奏でる」	「呼吸する」(3) 「対話する」 「生える」	「呼吸する」(3) 「戯れる」 「舞う」 「暮らす」 「立つ」	「抱く」 「触つきが良い」

▼表5 〈説明対象〉の分類

分類 (個数)	考え方 (6)		建築全体 (18)		計画 (11)		空間 (9)		建築部位 (23)										構造 (1)		非実体 (3)		土地 (2)	
	小分類 〔番号順〕	該当 個数	外観 (7)	外形 (11)	屋根 (3)	柱 (2)	壁 (5)	フ ァ サ ード (3)	ル ー パ ー (1)	窓 (1)	ド ア (1)	階 段 (1)	装 置 (1)	照 明 (2)	家具 (2)	風景 (1)	光 (1)	シ ス テ ム (1)	敷 地 (1)	ラン ド ス ケ ー プ (1)				

いう表現は6回出現し、いずれも2000年代以降であった。

5. 1. 2. 〈説明対象〉の分類

〈説明対象〉は表5の通り8つに分類された。〈建築部位〉を対象とするものが最も多く、31.5%を占めた。次いで〈建築全体〉を対象とする物が24.7%を占めた。

5. 1. 3. [内容]の分類

[内容]はその表現を構成する単語の品詞から[動詞]^{注7)}[形容詞][形容動詞][その他]の4つに分類された^{注8)}。

5. 2. クロス集計表による対応関係の分析

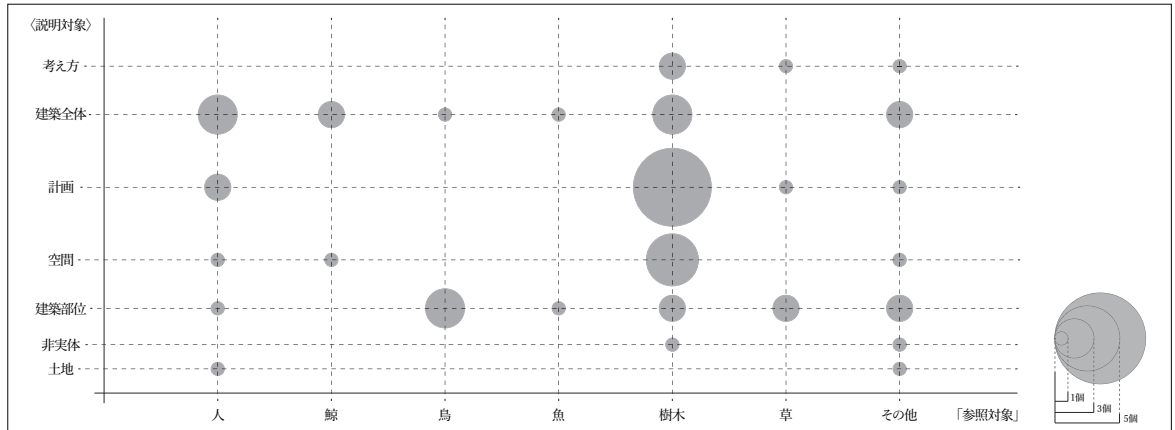
5. 2. 1. 「参照対象」と〈説明対象〉の対応

「参照対象」と〈説明対象〉のクロス集計表を表6に示す。「人」に分類される表現は建築全体の外形・外観に対して用いられることが最も多く、「樹木」に分類される表現は平面・断面計画に対して用いられることが最も多かった。「樹木」の表現はその幹と枝の繁がり・位置関係を、各部屋の位置関係の比喩として、樹木が成長する様子を、空間が広がり展開するさまの比喩として用いる傾向が見られた。また、〈建築全体〉と〈建築部位〉は、それぞれ6つの「参照対象」で見られ、特定の「生物の種類」に限らずさまざまな生物を参照して言及されることがわかった。

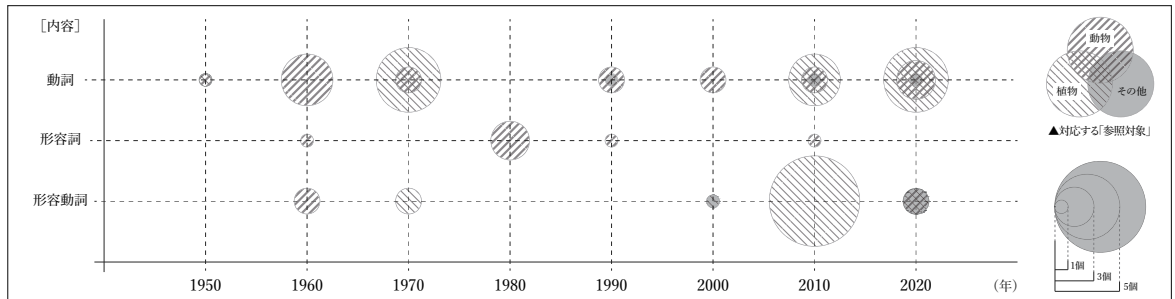
5. 2. 2. 「参照対象」と[内容]の対応

「参照対象」と[内容]について年代順に整理したクロス集計表を表7に示す。[動詞]による表現は1980年代を除きどの年代でも見られた。2010年代は他と比べて[形容動詞]による表現が多く、その全てが「植物」と対応していた。

▼表6 「参照対象」と〈説明対象〉のクロス集計表



▼表7 「参照対象」と[内容]の年代別クロス集計表



脚注：注1) 参考文献1) 注2) 参考文献2) 注3) 参考文献3)4) 注4) 1950年1月号から1950年12月号、1960年1月号から1960年12月号、1970年1月号から1970年12月号、1980年1月号から1980年12月号、1990年1月号から1990年12月号、2000年1月号から2000年12月号、2010年1月号から2010年12月号、2020年1月号から2020年12月号の合計96冊。注5) 抽出された各表現が生物を参照した比喩表現に該当するかについて、抽出したのちに5人に確認を得た。注6) 表2のパターン[A][B][D]の合計数(53)と表6の「生物」の該当個数(54)に差異があるのは、抽出した1つの表現内に2つの「生物の種類」が含まれていたからである。注7) [動詞]は[動態動詞][状態動詞]に分類されるが、ここでは[動態動詞]のみを扱った。注8) 修飾部のある表現については被修飾語のみを対象として抽出した。注9) 参考文献5) 参考文献：1) ル・コルビュジェ『建築をめざして』鹿島出版社 1967 2) 山根俊輔、岡河貢『現代建築における比喩表現の研究』日本建築学会大会学術講演梗概集 2009.8 3) 原田彩加、戸田啓太、山田深『現代建築家の言説にみられる隠喩的表現の対象と内容—建築の創作における隠喩に関する研究(1)—』日本建築学会大会学術講演梗概集 2018.9 4) 戸田啓太、山田深『現代建築家の言説にみられる隠喩的表現の対応関係—建築の創作における隠喩に関する研究(2)—』日本建築学会大会学術講演梗概集 2018.9 5) 山下絵梨佳、岡河貢『メタボリズムグループの設計手法に関する研究—建築作品における比喩表現と形態—』日本建築学会大会学術講演梗概集 2013.8

発表資料

現代建築における生物を参照した比喩表現に関する研究
- 『新建築』1950年から2020年を分析対象として -

4119030 坂牛研究室 川岸美伊

1

背景と目的

2

比喩表現
II
意図をわかりやすく鮮明に伝達する手段

背景と目的 研究対象 研究方法 結果・考察 結論

3

“非生物を生物であるかのように”

背景と目的 研究対象 研究方法 結果・考察 結論

4

“非生物を生物であるかのように”
= 生物を参照した比喩表現 に着目

背景と目的 研究対象 研究方法 結果・考察 結論

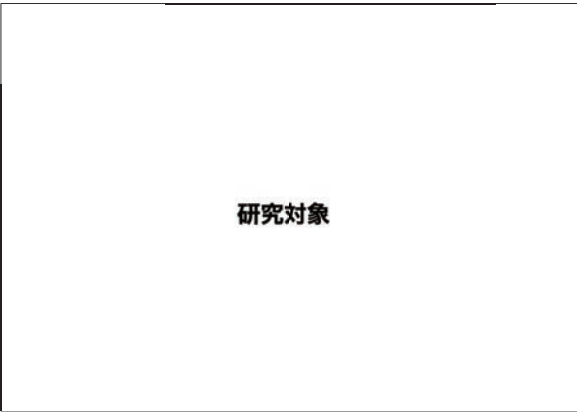
5

“非生物を生物であるかのように”
= 生物を参照した比喩表現 に着目

現代建築の流れの一端を明らかにする

背景と目的 研究対象 研究方法 結果・考察 結論

6



7



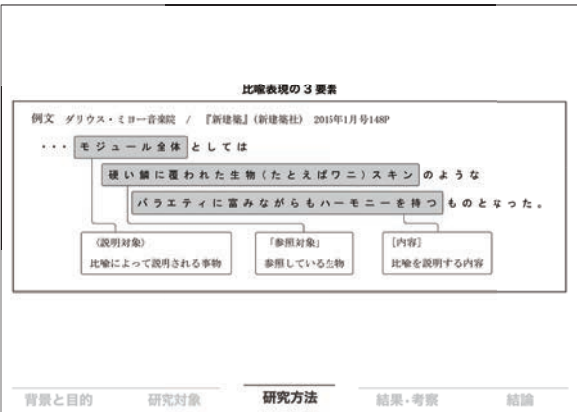
8



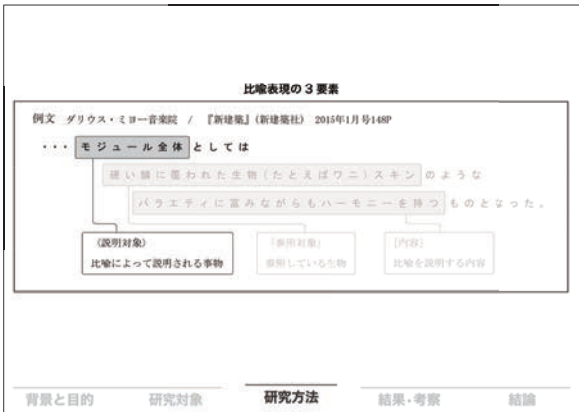
9



10



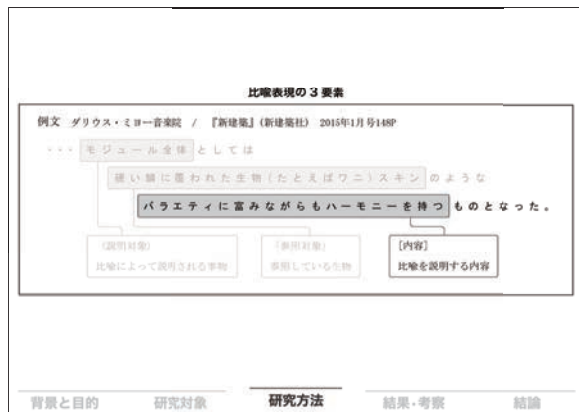
11



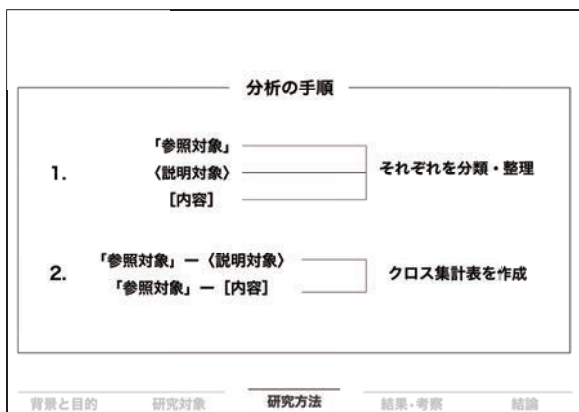
12



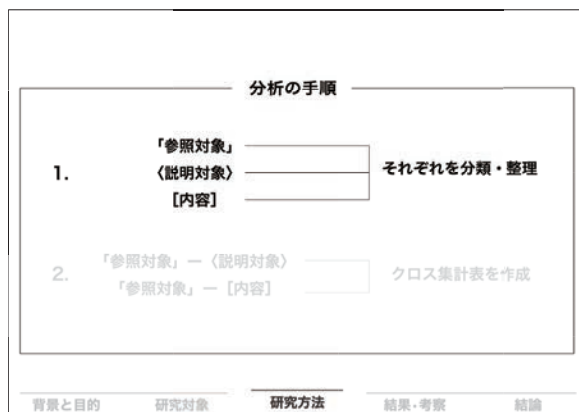
13



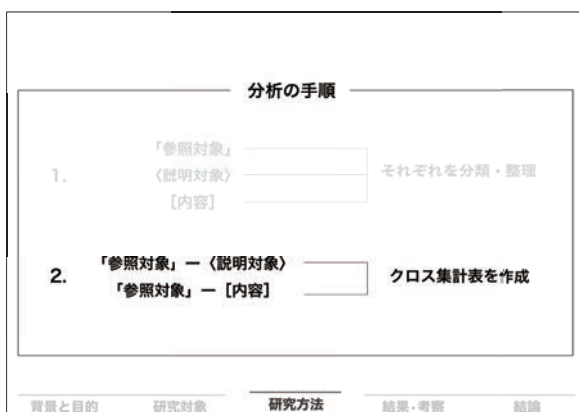
14



15



16



17



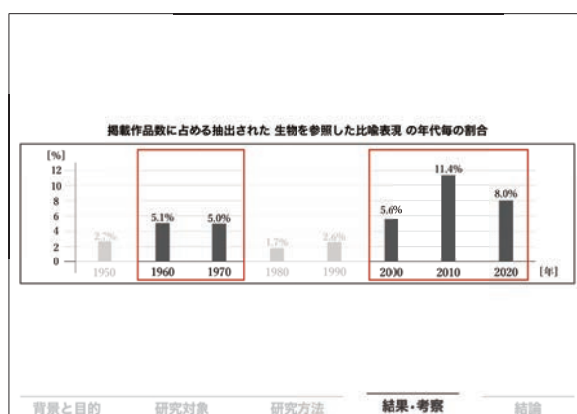
18



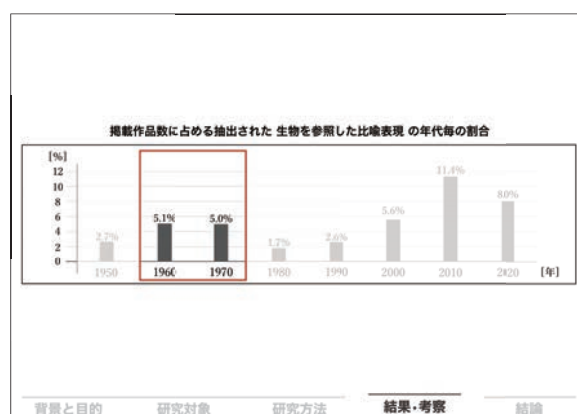
19



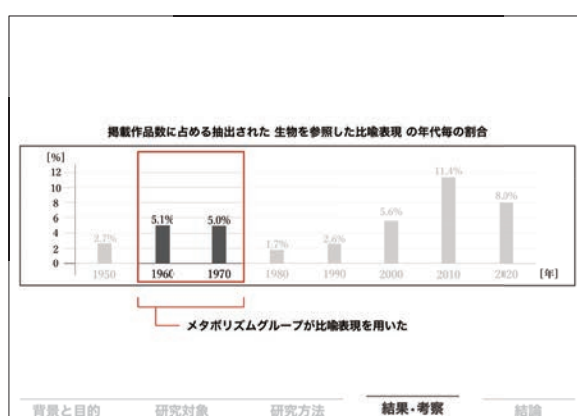
20



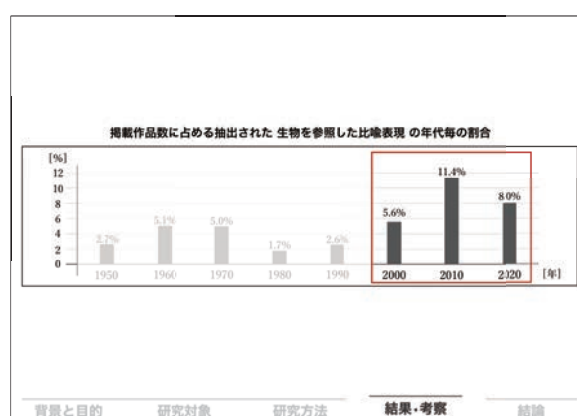
21



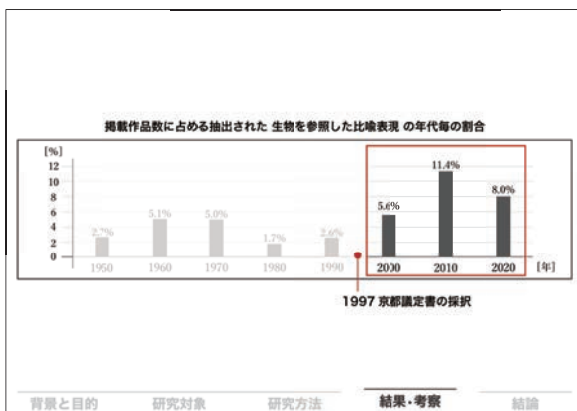
22



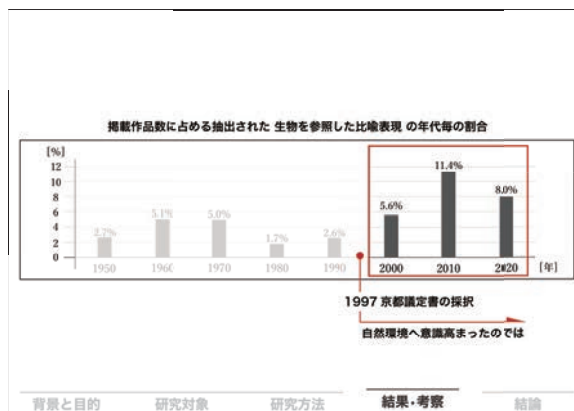
23



24



25



26

「参照対象」のパターン

言語構成	例文	計
[A] 「生物の種類」 + 「用言(生物に用いられる表現)」	クジラが海原を躍動するかのよう	10
[B] 「生物の種類」 + 「用言(生物以外にも用いられる表現)」	鯨鯨が浮かぶような	8
[C] 非生物 + 「用言(生物に用いられる表現)」	羽衣が…舞い降りたような	1
[D] 「生物の種類」 のみ	樹木のように	35
[E] 「用言(生物に用いられる表現)」 のみ	呼吸する	19

背景と目的 研究対象 研究方法 **結果・考察** 結論

27

「参照対象」のパターン

言語構成	例文	計
[A] 「生物の種類」 + 「用言(生物に用いられる表現)」	クジラが海原を躍動するかのよう	10
[B] 「生物の種類」 + 「用言(生物以外にも用いられる表現)」	鯨鯨が浮かぶような	8
[C] 非生物 + 「用言(生物に用いられる表現)」	羽衣が…舞い降りたような	1
[D] 「生物の種類」 のみ	樹木のように	35
[E] 「用言(生物に用いられる表現)」 のみ	呼吸する	19

背景と目的 研究対象 研究方法 **結果・考察** 結論

28

「参照対象」のパターン

言語構成	例文	計
[A] 「生物の種類」 + 「用言(生物に用いられる表現)」	クジラが海原を躍動するかのよう	10
[B] 「生物の種類」 + 「用言(生物以外にも用いられる表現)」	鯨鯨が浮かぶような	8
[C] 非生物 + 「用言(生物に用いられる表現)」	羽衣が…舞い降りたような	1
[D] 「生物の種類」 のみ	樹木のように	35
[E] 「用言(生物に用いられる表現)」 のみ	呼吸する	19

背景と目的 研究対象 研究方法 **結果・考察** 結論

29

「参照対象」のパターン

言語構成	例文	計
[A] 「生物の種類」 + 「用言(生物に用いられる表現)」	クジラが海原を躍動するかのよう	10
[B] 「生物の種類」 + 「用言(生物以外にも用いられる表現)」	鯨鯨が浮かぶような	8
[C] 非生物 + 「用言(生物に用いられる表現)」	羽衣が…舞い降りたような	1
[D] 「生物の種類」 のみ	樹木のように	35
[E] 「用言(生物に用いられる表現)」 のみ	呼吸する	19

背景と目的 研究対象 研究方法 **結果・考察** 結論

30

「参照対象」のパターン		
言語構成	例文	計
[A] 「生物の種類」 + 「用言(生物に用いられる表現)」	クジラが海原を運動するかのよう	10
[B] 「生物の種類」 + 「用言(生物以外にも用いられる表現)」	船底が浮かぶような	8
[C] 非生物 + 「用言(生物に用いられる表現)」	羽衣が…舞い降りたような	1
[D] 「生物の種類」 のみ	樹木のように	35
[E] 「用言(生物に用いられる表現)」 のみ	呼吸する	19

31

「参照対象」のパターン		
言語構成	例文	計
[A] 「生物の種類」 + 「用言(生物に用いられる表現)」	クジラが海原を運動するかのよう	10
[B] 「生物の種類」 + 「用言(生物以外にも用いられる表現)」	船底が浮かぶような	8
[C] 非生物 + 「用言(生物に用いられる表現)」	羽衣が…舞い降りたような	1
[D] 「生物の種類」 のみ	樹木のように	35
[E] 「用言(生物に用いられる表現)」 のみ	呼吸する	19

32

「参照対象」のパターン		
言語構成	例文	計
[A] 「生物の種類」 + 「用言(生物に用いられる表現)」	クジラが海原を運動するかのよう	10
[B] 「生物の種類」 + 「用言(生物以外にも用いられる表現)」	船底が浮かぶような	8
[C] 非生物 + 「用言(生物に用いられる表現)」	羽衣が…舞い降りたような	1
[D] 「生物の種類」 のみ	樹木のように	35
[E] 「用言(生物に用いられる表現)」 のみ	呼吸する	19

33

パターン [A][B][D] に含まれる「生物の種類」の分類												
分類 該当例	生物(54)											
	動物(23)									植物(22)		その他(9)
	人 (6)	鯨 (3)	鳥 (4)	亀 (1)	蛙 (1)	魚 (2)	とんぼ (1)	昆虫 (1)	尺取虫 (1)	怪物 (1)	樹木 (18)	草 (4)
	「美人」「美少女」「美女」	「クジラ」	「ひよこ」「鶏」「鳥」	「亀の甲羅」	「カエル」	「小さな魚」「魚群」	「トンボ」	「甲虫の音」	「尺取虫」	「異形の怪物」	「樹木」「枝」「幹」	「草」「群生植物」
	「生物」「生命体」「細胞」											

34

パターン [A][B][D] に含まれる「生物の種類」の分類												
分類 該当例	生物(54)											
	動物(23)									植物(22)		その他(9)
	人 (6)	鯨 (3)	鳥 (4)	亀 (1)	蛙 (1)	魚 (2)	とんぼ (1)	昆虫 (1)	尺取虫 (1)	怪物 (1)	樹木 (18)	草 (4)
	「美人」「美少女」「美女」	「クジラ」	「ひよこ」「鶏」「鳥」	「亀の甲羅」	「カエル」	「小さな魚」「魚群」	「トンボ」	「甲虫の音」	「尺取虫」	「異形の怪物」	「樹木」「枝」「幹」	「草」「群生植物」
	「生物」「生命体」「細胞」											

35

「参照対象」のパターン		
言語構成	例文	計
[A] 「生物の種類」 + 「用言(生物に用いられる表現)」	クジラが海原を運動するかのよう	10
[B] 「生物の種類」 + 「用言(生物以外にも用いられる表現)」	船底が浮かぶような	8
[C] 非生物 + 「用言(生物に用いられる表現)」	羽衣が…舞い降りたような	1
[D] 「生物の種類」 のみ	樹木のように	35
[E] 「用言(生物に用いられる表現)」 のみ	呼吸する	19

36

パターン[E]に含まれる「用言」の年代毎一覧							
1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010	2020
該当なし	「着物の裾や袖からチラリと見える」	「身を伏せる」	該当なし	「脚を下ろす」 「舞う」 「美でる」	「呼吸する」(3) 「対話する」 「生える」	「呼吸する」(3) 「隠れる」 「踊る」 「舞う」 「暮らす」 「立つ」	「抱く」 「触つきが良い」

37

パターン[E]に含まれる「用言」の年代毎一覧							
1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010	2020
該当なし	「着物の裾や袖からチラリと見える」	「身を伏せる」	該当なし	「脚を下ろす」 「舞う」 「美でる」	「呼吸する」(3) 「対話する」 「生える」	「呼吸する」(3) 「隠れる」 「踊る」 「舞う」 「暮らす」 「立つ」	「抱く」 「触つきが良い」

「呼吸する(ような)」が多く見られた。

38

パターン[E]に含まれる「用言」の年代毎一覧							
1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010	2020
該当なし	「着物の裾や袖からチラリと見える」	「身を伏せる」	該当なし	「脚を下ろす」 「舞う」 「美でる」	「呼吸する」(3) 「対話する」 「生える」	「呼吸する」(3) 「隠れる」 「踊る」 「舞う」 「暮らす」 「立つ」	「抱く」 「触つきが良い」

1997 京都議定書の採択
自然環境へ意識高まったのでは

39

〈説明対象〉の分類																					
分類 (個数)	考え方 (6)	建築全体 (18)		計画 (11)	空間 (9)	建築部位 (23)										構造 (1)	非定本 (3)	土地 (2)			
		外観	外形			屋根	柱	壁	ファサード	ルーパー	窓	ドア	階段	装置	照明				家具		
小分類 (言語機能)		(7)	(11)			(3)	(2)	(5)	(3)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(1)	(2)					
																	風景 (1)	光 (1)	システム (1)	敷地 (1)	ランドスケープ (1)

背景と目的

研究対象

研究方法

結果・考察

結論

40

《説明対象》の分類																						
分類 (個数)	考え力 (6)	建築全体 (18)		計画 (11)	空間 (9)	建築部位 (23)										構造 (1)	非定本 (3)		土地 (2)			
		外観 (7)	外形 (11)			屋根 (3)	柱 (2)	壁 (5)	ファサード (3)	ルーパー (1)	窓 (1)	ドア (1)	階段 (1)	装置 (2)	照明 (1)		家具 (2)	風景 (1)		光 (1)	システム (1)	敷地 (1)
小分類 言語機能		(7)	(11)			(3)	(2)	(5)	(3)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(1)	(2)		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)

学習と目的	研究対象	研究方法	結果・考察	結論
-------	------	------	-------	----

41

【内容】

【動詞】

—— 例) 【立つ】 【展開する】 【開閉する】 【揺れている】

【形容詞】

例) 【かたい】 【力強い】 【暖かい】 【重い】

【形容動詞】

—— 例) 【強烈な】 【有機的な】 【緩やかな】 【多様な】

【その他】

背景と目的

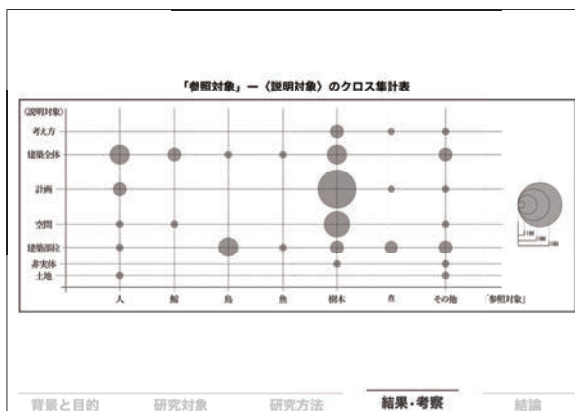
研究対象

研究方法

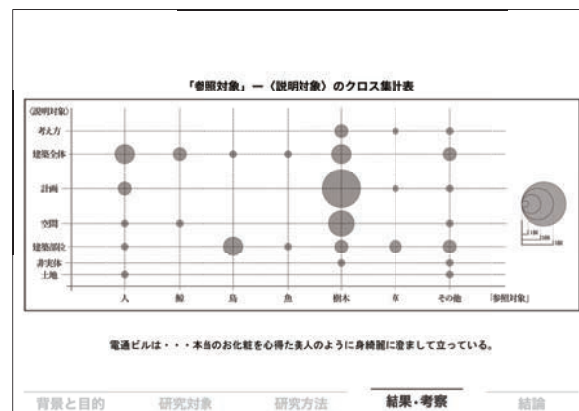
結果・考察

結論

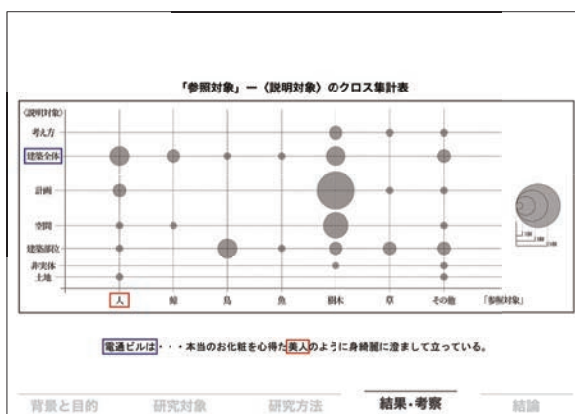
42



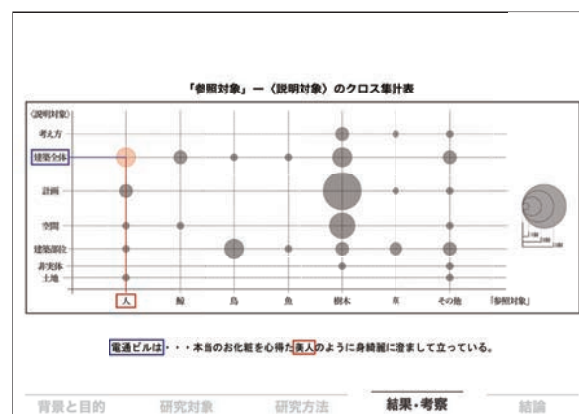
43



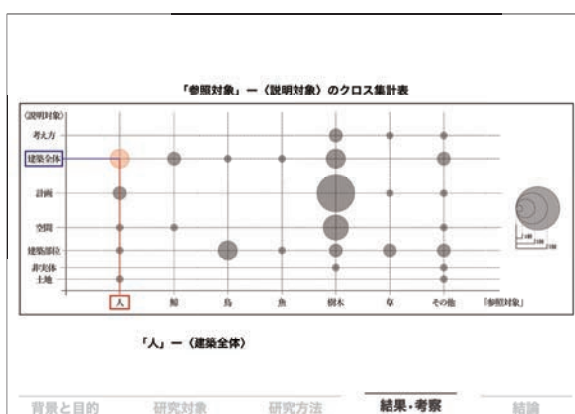
44



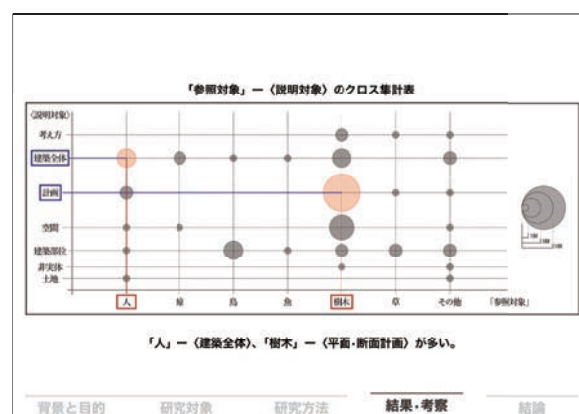
45



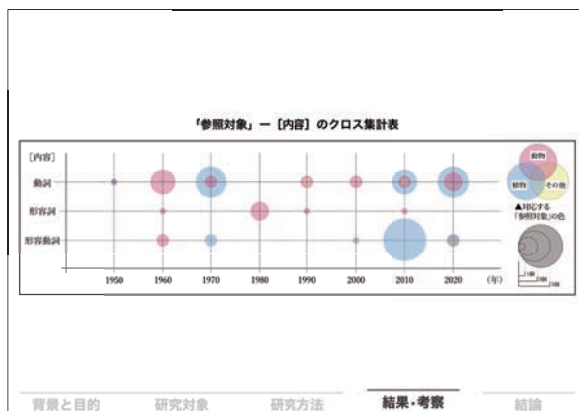
46



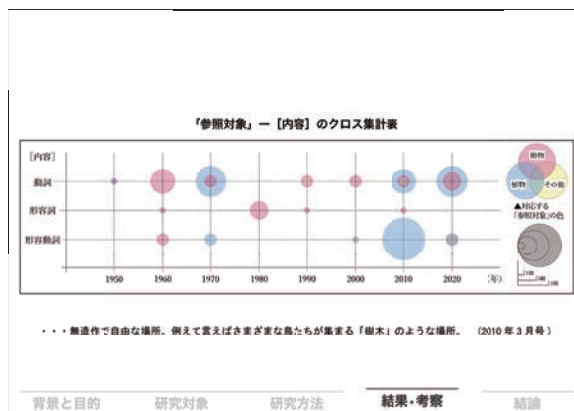
47



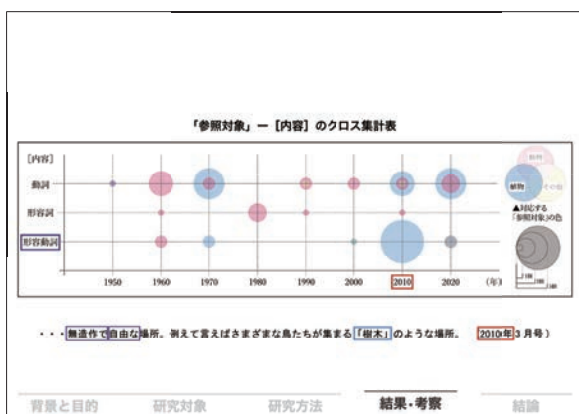
48



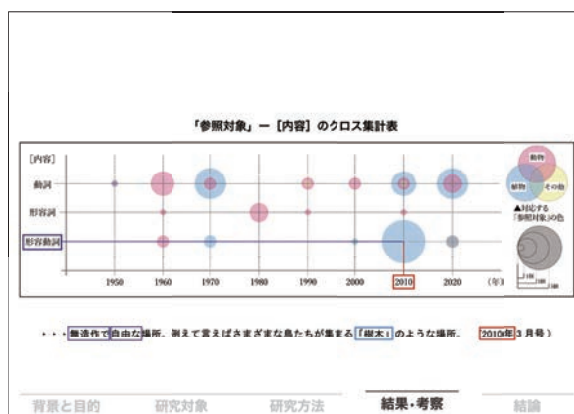
49



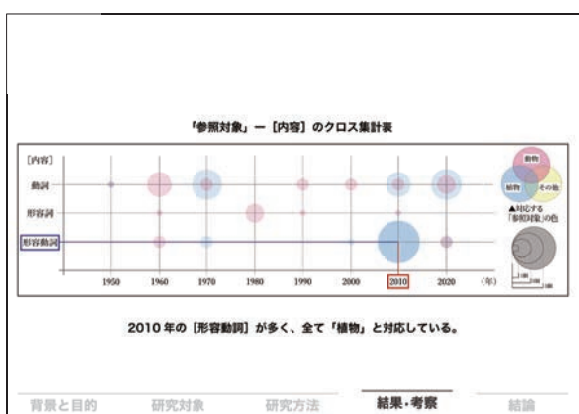
50



51



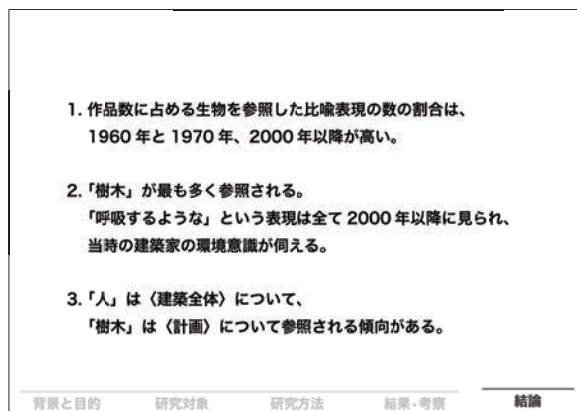
52



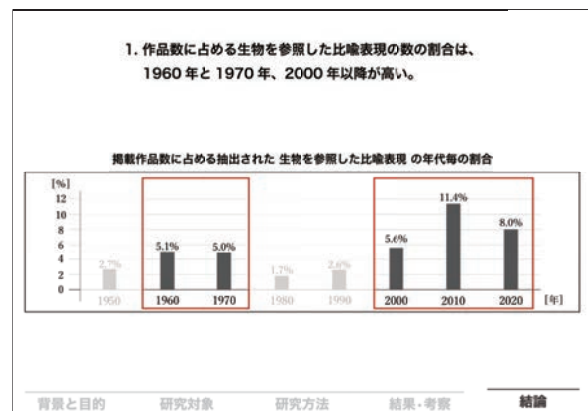
53



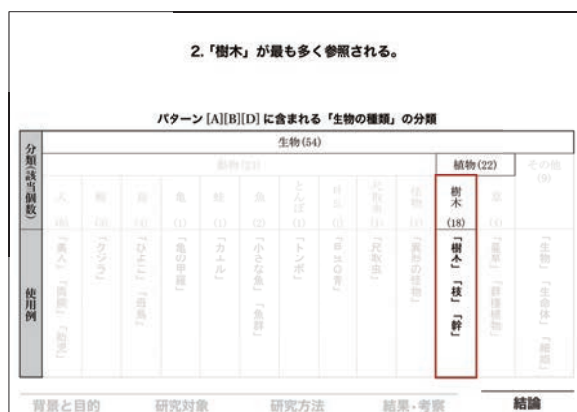
54



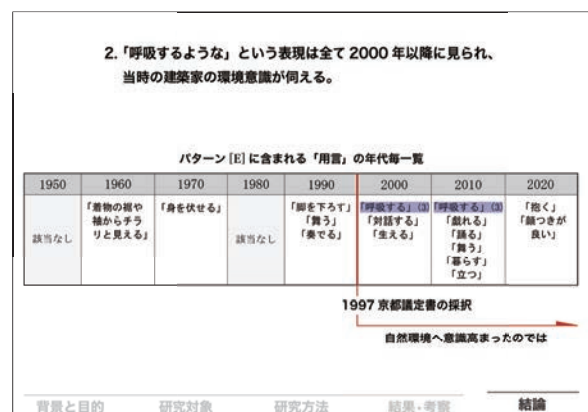
55



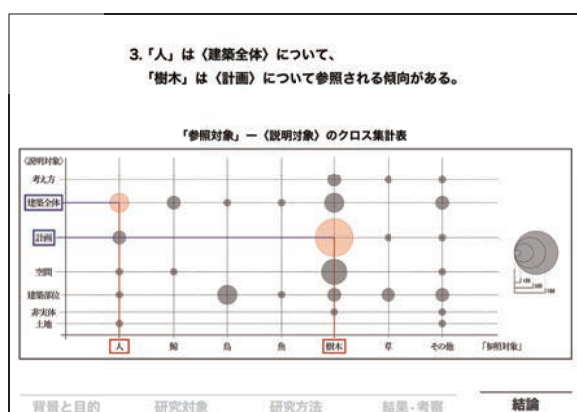
56



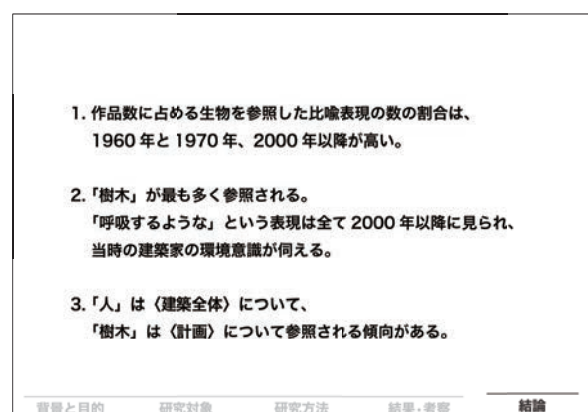
57



58



59



60

第 1 章

序論

1. 1. 研究の背景と目的

比喩表現は自身の意図をより鮮明に伝達する手段として広い分野で日常的に用いられる。建築においては、ル・コルビュジェの「住宅は住むための機械である」^{注1)} という代表的な比喩表現をはじめ、古くから比喩表現が多く利用されてきた。

また、比喩表現の中でも、建築などの非生物をまるで生物であるかのように、生物を参照して比喩的に表現することがある。非生物を生物であるかのように解釈することは表現の幅を広げるための有用な手段として用いられている。

そこで本研究では、現代建築家の言説に見られる比喩表現のうち、生物を参照している表現に着目する。その生物や内容、説明対象、それらの関係や変遷を調べ、比喩表現の観点から現代建築の時流の一端を明らかにすることを目的とする。



▲「踊る」家と呼ばれる『Dancing House』（GoogleEarth より）

脚注： 注1) 参考文献1) を参照。

1. 2. 既往研究

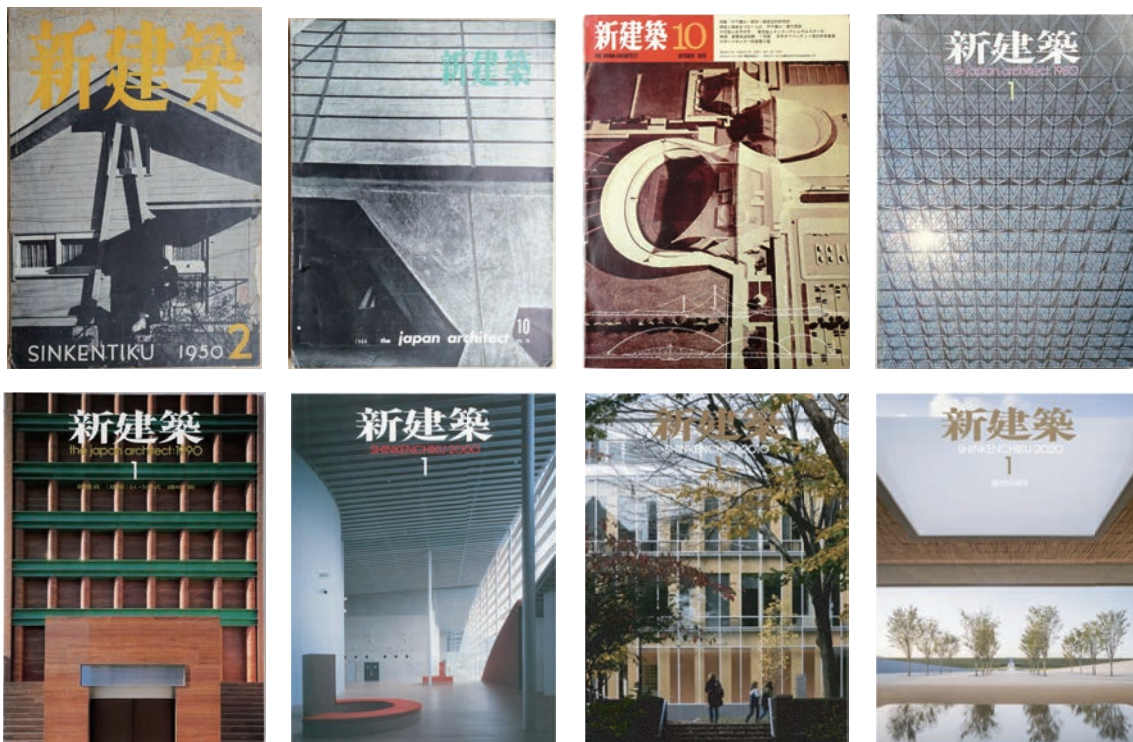
現代建築作品における言説に見られる比喩表現を扱った研究としては、山根らによる『現代建築における比喩表現の研究』^{注2)}において比喩表現と建築形態の関係性、通時的特性について研究したものや、原田らによる『現代建築家の言説にみられる隠喩的表現の対象と内容 - 建築の創作における隠喩に関する研究(1)-』^{注3)}における内容と対象部位の対応関係に関する総体的な考察が挙げられる。

しかし、生物を参照した比喩表現のみに着目した研究は見当たらない。

脚注： 注2) 参考文献2) を参照。 注3) 参考文献3) を参照。

1. 3. 研究対象

新建築
1950 年～2020 年（10 年毎）



雑誌『新建築』（新建築社）の1950年から2020年までに発行されたもののうち、10年ごとに1月号から12月号の12冊8年分（計96冊1282作品）から得られる言説を対象とする。なお、本研究では現代建築を対象とするため、1950年以降を扱うこととする。

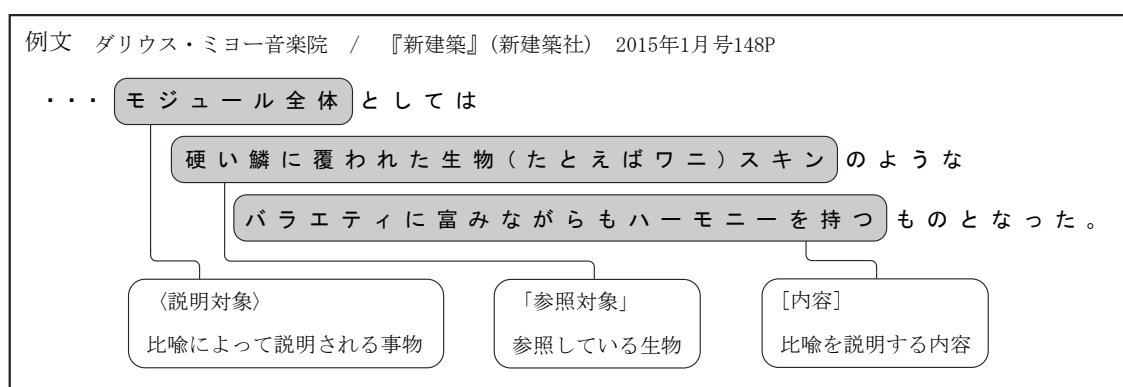
第 2 章

研究方法

2. 1. 分析対象

比喩表現を、図1のように3つの要素に分けて分析する。

参照している生物を「参照対象」、比喩表現によって説明される対象物を〈説明対象〉、その比喩表現を通して伝えたいことを〔内容〕として抽出する。



▲図1 比喩表現の抽出例

2. 2. 分析方法

2. 2. 1. 各要素の分類・整理

図1の定義に基づいて比喩表現を抽出したのち、「参照対象」、〈説明対象〉、[内容]をそれぞれ分類・整理する。

ただし、抽出された各表現が生物を参照した比喩表現に該当するかについて、抽出したのちに5人に確認を得た。

2. 2. 2. クロス集計表の作成

次に、「参照対象」と〈説明対象〉のクロス集計表、「参照対象」と〈内容〉のクロス集計表をそれぞれ作成し、それらの対応関係を見る。

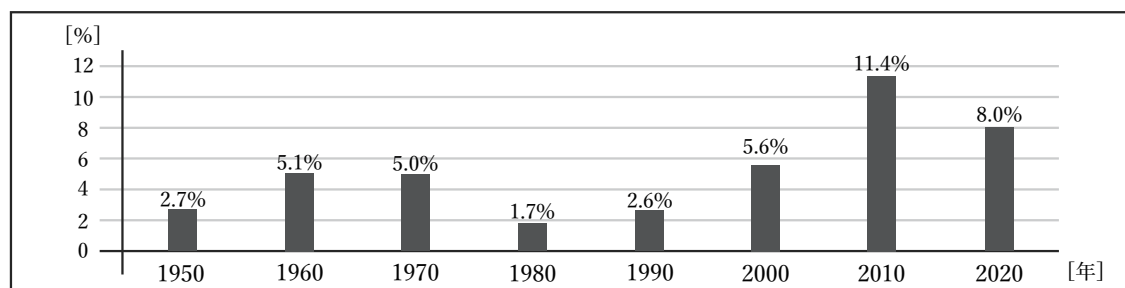
2. 2. 3. 総体的分析・考察

最後に、2つの分析から得られた情報をもとに、現代建築における生物を参照した比喩表現について総体的に分析、考察する。

第 3 章

研究結果

3. 0. はじめに



▲表 1 掲載作品数に占める生物を参照した比喩表現の年代毎割合

調査した全 1282 作品のうち抽出された比喩表現の総数は 73 個であった。各年代の掲載作品数に占める抽出された比喩表現の数の割合を表 1 に示す。1960 年・1970 年と 2000 年以降の割合が高く、いずれも 5.0%を超えた。

3. 1. 各要素の分類・整理

3. 1. 1. 「参照対象」の分類

	言語構成	例文	計
「参照対象」 のパターン	[A] 「生物の種類」 + 「用言(生物に用いられる表現)」	クジラが海原を躍動するかのような	10
	[B] 「生物の種類」 + 「用言(生物以外にも用いられる表現)」	胎児が浮かぶような	8
	[C] 非生物 + 「用言(生物に用いられる表現)」	羽衣が…舞い降りたような	1
	[D] 「生物の種類」のみ	樹木のように	35
	[E] 「用言(生物に用いられる表現)」のみ	呼吸する	19

▲表2 「参照対象」のパターン

まず、「参照対象」はその表現の言語構成から表2のように5つのパターンに分類された。
パターン [D] が最も多く見られ、全体の 48.0%を占めた。

分類(該当個数)	生物(54)												
	動物(23)										植物(22)		その他(9)
	人 (8)	鯨 (3)	鳥 (4)	亀 (1)	蛙 (1)	魚 (2)	とんぼ (1)	甲虫 (1)	尺取虫 (1)	怪物 (1)	樹木 (18)	草 (4)	
使用例	「美人」「両腕」「胎児」	「クジラ」	「ひよこ」「母鳥」	「亀の甲羅」	「カエル」	「小さな魚」「魚群」	「トンボ」	「甲虫の背」	「尺取虫」	「異形の怪物」	「樹木」「枝」「幹」	「蔓草」「群棲植物」	「生物」「生命体」「細胞」

▲表3 パターン [A][B][D] に含まれる「生物の種類」の分類

さらに、パターン [A][B][D] の表現に含まれる「生物の種類」については表3の通り KJ 法的に分類・整理を行った。

ただし、表2のパターン [A][B][D] の合計数 (53) と表3の「生物」の該当個数 (54) に差異があるのは、抽出した1つの表現内に2つの「生物の種類」が含まれていたからである。

「生物の種類」内において、「樹木」に分類される表現が最も多く見られ、「生物」全体の33.3%を占めた。また、「動物」に分類される表現の中では、「人」に分類される表現が多く見られ、「生物」全体の14.8%、「動物」の34.8%を占めた。

1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010	2020
該当なし	「着物の裾や袖からチラリと見える」	「身を伏せる」	該当なし	「脚を下ろす」 「舞う」 「奏でる」	「呼吸する」(3) 「対話する」 「生える」	「呼吸する」(3) 「戯れる」 「踊る」 「舞う」 「暮らす」 「立つ」	「抱く」 「顔つきが良い」

▲表4 パターン[E]に含まれる「用言」の年代毎一覧

また、特定の生物の種類が記載されていないパターン[E]については、その「用言」の年代別一覧を表4に示す。

「呼吸する」という表現が6回出現し、いずれも2000年以降に見られた。

3. 1. 2. 〈説明対象〉の分類

分類 (個数)	考え方 (6)	建築全体 (18)		計画 (11)	空間 (9)	建築部位 (23)											構造 (1)	非実体 (3)			土地 (2)	
小分類 (該当個数)		外観	外形			屋根	柱	壁	ファサード	ルーバー	窓	ドア	階段	装置	照明	家具		風景	光	システム	敷地	ランドスケープ
		(7)	(11)			(3)	(2)	(5)	(3)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(1)	(2)		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)

▲表 5 〈説明対象〉の分類

〈説明対象〉についても同様に KJ 法的に分類・整理を行った結果、表 5 の通り 8 つに分類された。
 〈建築部位〉を対象とするものが最も多く、31.5%を占めた。次いで〈建築全体〉を対象とする物が 24.7%を占めた。

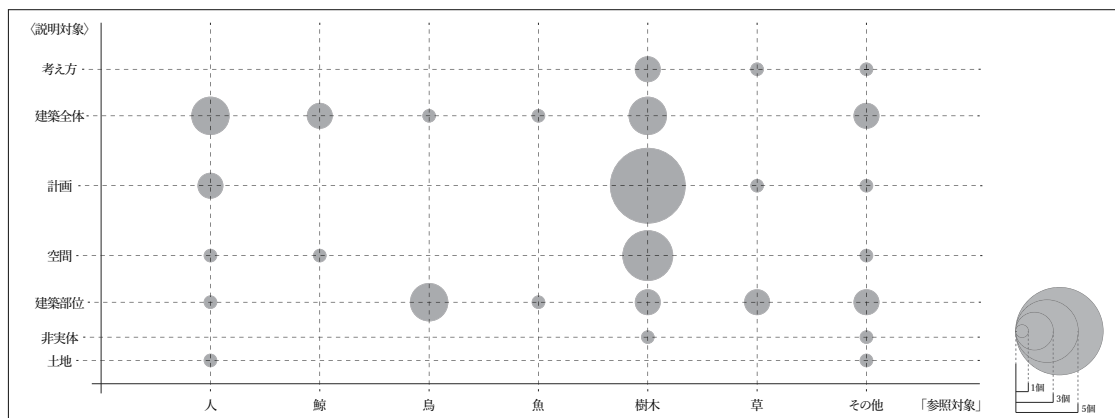
3. 1. 3. 「内容」の分類

「内容」はその表現を構成する単語の品詞から「動詞」「形容詞」「形容動詞」「その他」の4つに分類された。

ただし、「動詞」は「動態動詞」「状態動詞」に分類されるが、ここでは「動態動詞」のみを扱った。また、修飾部のある表現については被修飾語のみを対象として抽出した。

3. 2. クロス集計表による対応関係の分析

3. 2. 1. 「参照対象」と〈説明対象〉の対応



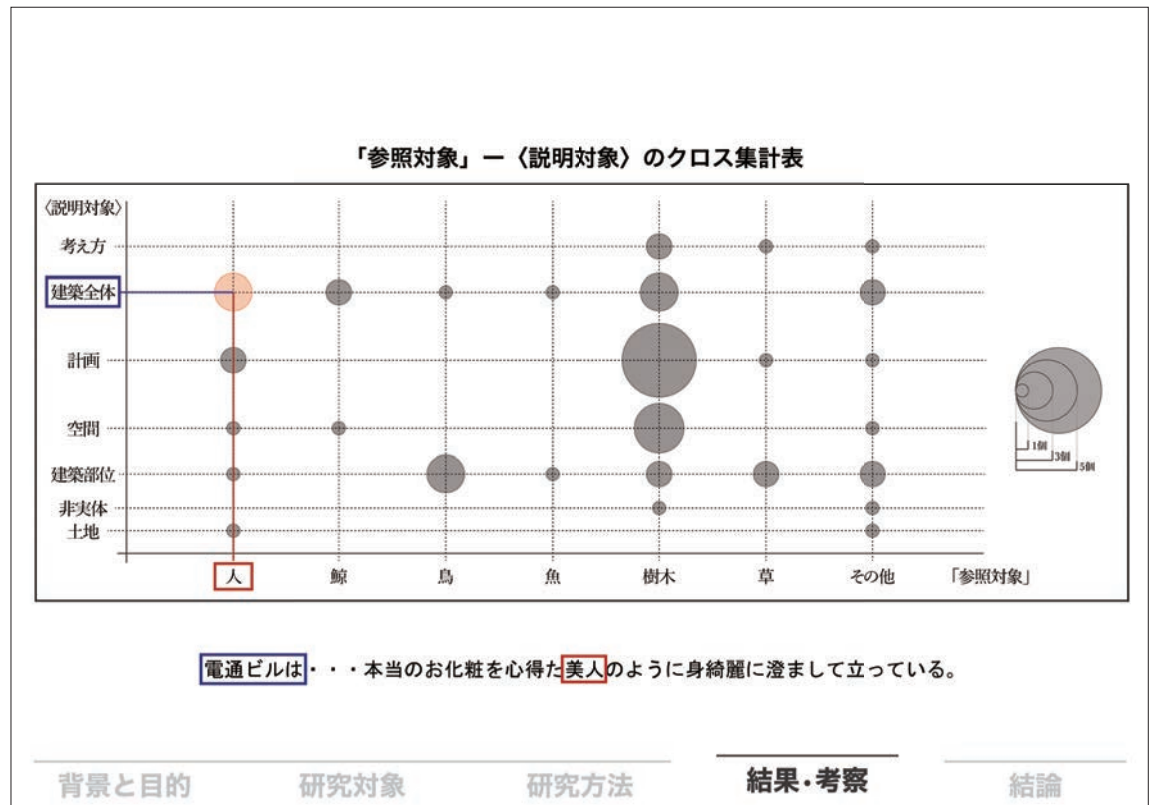
▲表6 「参照対象」と〈説明対象〉のクロス集計表

「参照対象」と〈説明対象〉のクロス集計表を表6に示す。

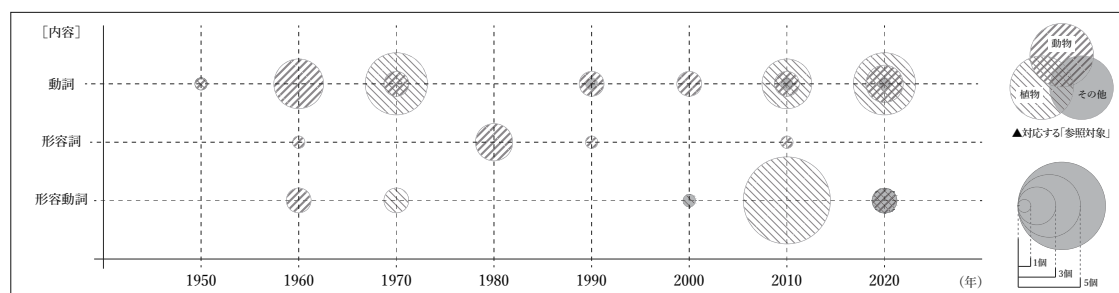
「人」に分類される表現は建築全体の外形・外観に対して用いられることが最も多く、「樹木」に分類される表現は平面・断面計画に対して用いられることが最も多かった。「樹木」の表現はその幹と枝の繋がり・位置関係を、各部屋の位置関係の比喻として、樹木が成長する様子を、空間が広がり展開するさまの比喻として用いる傾向が見られた。

また、〈建築全体〉と〈建築部位〉は、それぞれ6つの「参照対象」で見られ、特定の「生物の種類」に限らずさまざまな生物を参照して言及されることがわかった。

No. 4 電通ビルの場合におけるプロット例（発表資料より）



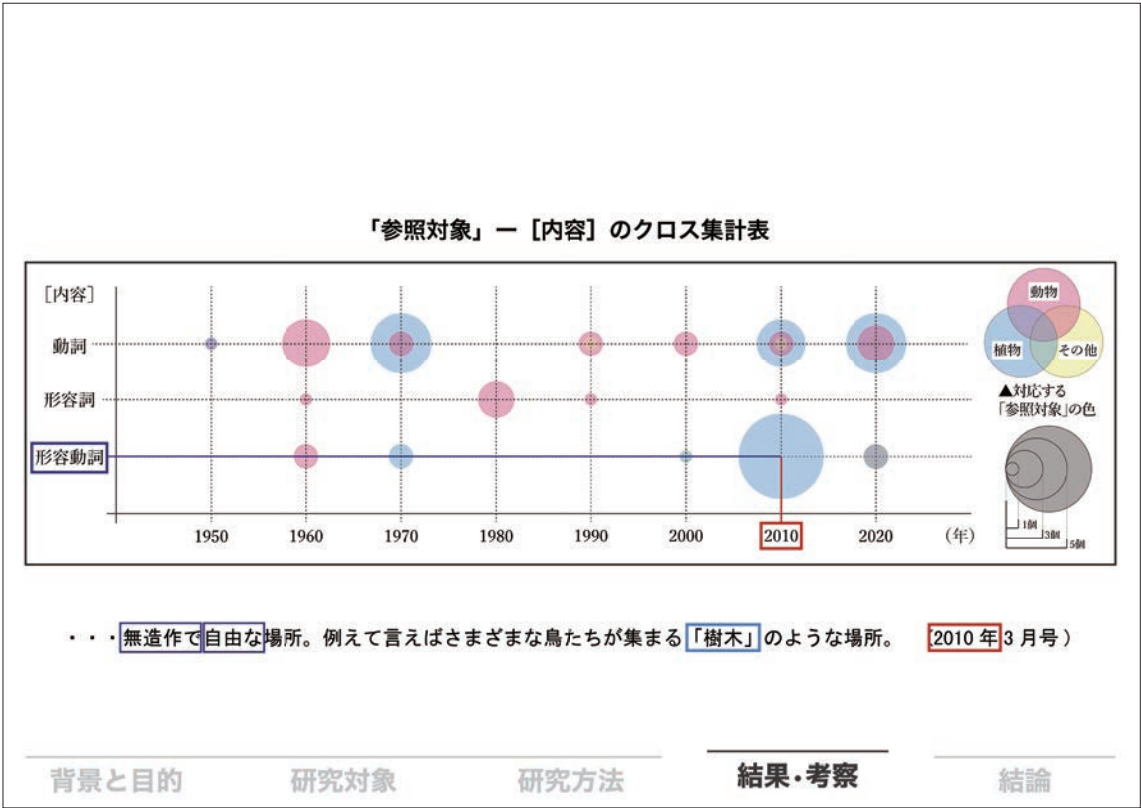
3. 2. 2. 「参照対象」と「内容」の対応



▲表7 「参照対象」と「内容」のクロス集計表

「参照対象」と「内容」について年代順に整理したクロス集計表を表7に示す。[動詞]による表現は1980年代を除きどの年代でも見られた。2010年代は他と比べて[形容動詞]による表現が多く、その全てが「植物」と対応していた。

No. 37 Y-3 の場合におけるプロット例（発表資料より）

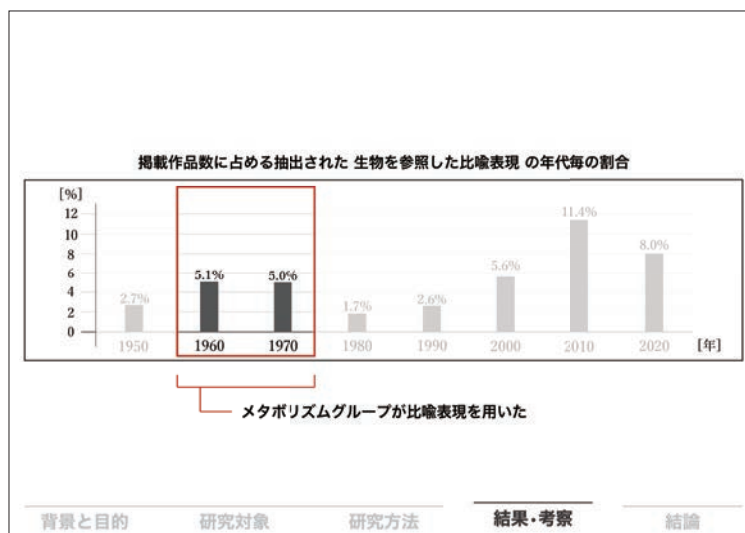


第 4 章

考察及び結論

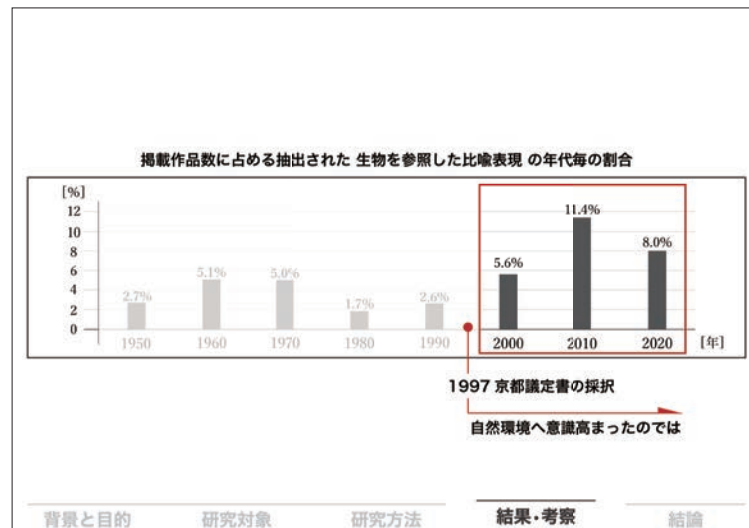
4. 1. 考察

表 1 において 1960 年・1970 年の割合が高かったことについて、これは 1960 年代から 1970 年代にかけて、メタボリズムグループの建築家らが生物を参照した比喻を用いたことに起因すると推測される^{注 4)}。



脚注： 注 4) 参考文献 5) を参照。

さらに、表1において2000年以降の割合が高かったことと、表4において「呼吸する（ような）」という表現が全て2000年代以降に見られることについて、これは1997年に京都議定書が採択され、環境設備など自然環境への配慮が求められるようになったことから、生物を用いた表現により設計者の環境意識を表そうとするためではないかと考えられる。また、当時はシックハウス症候群が問題視され始めた時期であり、人体に害のない素材が使われるなど、環境問題に対する解決が見られた時期であったためではないかとも考えられる。



パターン[E]に含まれる「用言」の年代毎一覧

1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010	2020
該当なし	「着物の裾や袖からチラリと見える」	「身を伏せる」	該当なし	「脚を下ろす」 「舞う」 「奏でる」	「呼吸する」(3) 「対話する」 「生える」	「呼吸する」(3) 「戯れる」 「踊る」 「舞う」 「暮らす」 「立つ」	「抱く」 「願つきが良い」

1997 京都議定書の採択
自然環境へ意識高まったのでは

背景と目的 研究対象 研究方法 結果・考察 結論

4. 2. 結論

本研究では以下のことが明らかになった。

- (1) 作品数に占める生物を参照した比喩表現の数の割合は、1960 年代・1970 年代と、2000 年代以降が高い。
- (2) 「樹木」の表現が最も多く参照される。また、「呼吸する（ような）」という表現は全て 2000 年代以降に見られ、当時の建築家の自然環境に対する意識が伺える。
- (3) 「人」に分類される表現は建築全体の外形・外観について、「樹木」に分類される表現は平面・断面計画について用いられる傾向がある。

本研究では、生物を参照した比喩表現について 10 年毎のデータから日本における現代建築全体の傾向を見た。さらに細かなスパンでデータを収集すれば、「脊椎動物」や「哺乳類」といった生物学的観点からのより詳細な分類による分析が可能になると考える。

参考文献

〔参考文献〕

- 1) ル・コルビュジェ『建築をめざして』鹿島出版社 1967
- 2) 山根俊輔，今掛壽広，岡河貢『現代建築における比喩表現の研究』日本建築学会大会学術講演梗概集 2009. 8
- 3) 原田彩加，戸田啓太，山田深『現代建築家の言説にみられる隠喩的表現の対象と内容 - 建築の創作における隠喩に関する研究 (1)-』日本建築学会大会学術講演梗概集 2018. 9
- 4) 戸田啓太，山田深『現代建築家の言説にみられる隠喩的表現の対応関係 - 建築の創作における隠喩に関する研究 (2)-』日本建築学会大会学術講演梗概集 2018. 9
- 5) 山下絵梨佳，岡河貢『メタボリズムグループの設計手法に関する研究 - 建築作品における比喩表現と形態 -』日本建築学会大会学術講演梗概集 2013. 8

謝辭

本研究にあたり、熱心にご指導いただいた坂牛卓教授に心より感謝申し上げます。また、お忙しい中多くのアドバイスをいただいた堀江さん、平田さん、チューターとして何度も相談に乗ってくださった高瀬さん、研究室の先輩方、作業にご協力いただいた後輩の皆様に深く感謝いたします。

本当にありがとうございました。

2022 年 11 月 15 日 川岸美伊

資料編

データシート

1950 年

No. 1 マサチューセッツ工業大学寮舎

各要素の分類



参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：建築部位

内容：動詞

掲載号：1950年2月号
建築用途：寮舎

該当部分

ボストン市に在るマサチューセッツ工業大学のこの寮舎は358人の寮生を收容する。この寮舎は大きな試みと云えるほどいろいろな問題をはらんでいる。そしてそれと同時にこの理解ある大學當局とこの偉大な作家とによつてのみなしとげらるゝことができたものをもつてゐると云えるであらう。この高名なフィンランドの建築家は地味な校舎の立ちならんでいる傍にこのロマンチックな寮舎をデザインした。設計者はこの寮生が日々の課程を了えて研究室から、教室からこの寮舎に歸つて来る河のよりの流れを想定した。そしてこの大きな流れは玄關に集り、大きな河が三角洲のデルタに分流するに似てまた玄關から各々の個室に分流してゆくよりデザインした。この「デルタ」のためにこの奇妙な建築が必然性をもつてきた。廣く開いた大きなV型の階段が建物の背中にくつついている。このV型の階段は巨大な蔓草のようにこの建物に大きくまつわりついている。(次頁上参照)

No.2 ドライブ・イン



各要素の分類

参照対象：パターン [A]
その他

説明対象：建築全体

内容：動詞

掲載号：1950年4月号

建築用途：レストラン

該当部分

読んで字の如く“Drive In”とは自動車
で乗り入れて来る客に、車中のまゝで、
tea service その他をするレストラン、
勿論自動車の國アメリカの所産である。
今度山王下に出来たこのドライブインは
日米通商の經營になるもので、この種
のものとして我國では最初のものだ。前
にターンラウンドがあり、左にバウトレ
ス右にバーゴラを伸し、中央に圓型平面
の木造主體2階建が、塔を高く擡げて立
っている。なおバーゴラの右をランプで導
かれる車は、背面の玄関前につき、直接
2階のレストランに入ることが出来る。
四方に腕を伸したこの建物はあたかも走
つて来る車を吸いよせようと待ちかま
えている生物の様だ。

1960 年

No. 3 クラーク記念館



各要素の分類

参照対象：パターン [E]

説明対象：建築部位

内容：形容動詞 (2)

掲載号：1960年2月号

建築用途：記念館

該当部分

建物の外部はコンクリートと白いタイルの構成で淡々と、むしろ静まりかえって見えるが、開口部のガラスを通して、この室内のサーモンが見えるように、心にくく仕組まれていることを発見するのである。それはちょうど着物の袖や襟からチラリと見える、きわめてひかえめな、しかしそれだけに強烈な色の印象を投げかけてくるものなのだ。こうした風土的な感覚は容易に素材にも発見することができる。たとえばオーディトリウムの壁面の横棧の使われ方は、じっとしていてもなにか炭焼き小屋の匂いがしてくるような、ホノボノとした北海道のものようであり、それが音響的な効果と組み合わせられて、ごく自然にでてくるところに楽しさが加わる

No. 4 電通ビル



各要素の分類

参照対象：パターン [A]
動物

説明対象：建築全体

内容：動詞

掲載号：1950年7月号
建築用途：オフィスビル

該当部分

シャンなファサード——堂島の河岸にあると聞いただけであったが、遠くから一目で、あれが丹下さんのだとわかった。ちょっと見ただけで、郵政省だ、竹中工務店だ、久米事務所だなど見当のつく建物はいくつかあり、それだけでもある水準と特徴を示すものだ。その上に電通ビルは、近ごろはやらない言葉で恐縮だが、居並らぶどの建物よりシャンに見えた。連れの人「コルビジェだね」とだれに言うともなく呟いたが、もちろんほめて言ったのだろう。とにかく、まわりの建物がひどすぎる。鈍い大きな壁に惨死体のような人がたをつけたり、建物の外から中まで金属板をやたらに貼りつけたり、これがこのごろの好みらしいが、ただ騒々しく安っぽいのだ。それらに比べれば電通ビルは玄人の趣味と、ほんとうのお化粧を心得た美人のように、身ざれいに澄まして立っている。事務所ビルは見て楽しむ建築ではなくビジネスの道具なので、法規で許されるかぎり、敷地一ぱい、高さの制限一ぱいに建てられる。たてよこの比例の良し悪し、まわりの空間の必要など、ほとんど問題にされないのが普通である。したがって

No. 5 高野町医院



各要素の分類

参照対象：パターン [A]
動物

説明対象：建築全体

内容：形容詞、形容動詞

掲載号：1960年9月号
建築用途：病院

該当部分

ここでこの建築について考えたことを少し述べてみたい。
この建築物はまず第一に大変に低いということだ。これまでの地方の古い病院というものはいくつかの階段で上るというように、いたけだかな表情のものが多かったのだが、「田園のなかに翼をひろげて母鳥がまいおりたような姿」——これは白く広いひさしをめぐらしたこの建物のイメージでもあった。ツガ材の木の色と、白壁と、あとは四季を通じて美しく変化する高原の風景にまかせて、清楚な感じに仕上げたいと思った。この地方は、寒さはきびしいが雪は少ないので民家の板ぶき屋根の勾配もゆるい。そのゆるい勾配の切妻屋根と白壁の対照が大変美しいこの地方の民家のすがたが、この建物にも自然に反響したようだ。しかし、屋根や壁の保持や補強については現代的に考えられている。



各要素の分類

参照対象：パターン [B]
植物

説明対象：計画

内容：動詞、形容動詞

掲載号：1960年10月号
建築用途：大学

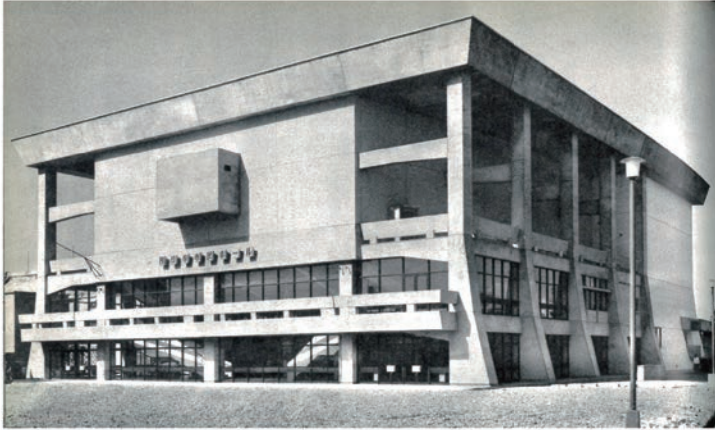
該当部分

建築計画について

私どもは大学も一つのコーポレーションであるという認識から出発して、学問の自由と社会奉仕という大学本来の機能を通して、建物の中に真の大学らしさを生みだそうと努力した。そのためまず二つの中心、つまり学問のコアと学生生活のコアとを設定し、そこから始めて、年輪が広がるように徐々に増築をしていく方法を考えた。全体を一つの有機的な協同体として構成するためには、小さい個室から二つのコアの形成に至り、それが結合されて全体を成す組織化が必要であった。しかも全体が完成される以前の過渡期においても、なおかつ一つのまとまりを持ち、チグハグな感じを与えないためにわれわれの努力は払われた。

No. 7 四日市市民ホール

各要素の分類



参照対象：パターン [D]
動物 (2)

説明対象：建築全体

内容：動詞

掲載号：1960年11月号
建築用途：ホール

該当部分

一見、寺院の講堂を思わせる風貌は、かつて時代の先端をいくデュードック風の旧庁舎の出現当時とは違って、華々しさはないかも知れないが、われわれは市民の生活感情が彼らの膚で感じ、卒直になじみをもてる表情がここにあるとして、この表現にふみ切った。ある人は舟のようだという。またある人はクジラのようだともいう。またカエルというペットネームもある由、人それぞれがこのマッスにそう呼びかけるさまは、理ずめの造型のみが建築表現として応々に人間を圧してしまうのにひきかえほほえましさを感ずる。 (高松)

1970 年

No. 8 大阪万博・大屋根



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
動物

説明対象：建築部位

内容：動詞

掲載号：1970年5月号
建築用途：パビリオン

該当部分

ジョイント部は、中空の鋳鋼製ボールジョイント、高張力大口径ボルト、球面シム、回転シム、調整シム、鋳鋼製キャップからなり、ボールジョイント中心に対するトラス部材のパイプの偏角は球面シムで、材長方向の長さ誤差は調整シム（数種の板厚のものを組合せて挿入する）で調整し、最後に回転シムを回してシム部分に圧縮力、ボルトに引張り力を導入してジョイント部の剛性を高めている。組立てには上下弦面のボールジョイントを高い精度に据え付けるための特殊な治具台が使用された。スペースフレームを空中に架設する方法には各種の案が考えられたが、構台を組む方法はボールジョイントの据付け精度が悪くなる恐れがあり、構台の組立て解体に要する時間と経費が膨大なものとなることを考えればとうてい現実性はなく、これらの問題を矛盾なく解決するためにリフトアップ方式が採用された。これは全屋根面のフレームとそれに付属する部材の合計重量4,800トンを地上で組立て、基準レベルから30mリフトアップするもので、1本の主柱（直径1,803mm、厚さ20～55mm）あたり450トンジャッキ2台、合計12台を使用した。ジャッキはアメリカデロング社のニューマティックジャッキ（空気圧を利用して柱にすがり付きながら尺取虫のように上昇するジャッキ）であるが、これをスペースフレーム構造に取付けて引揚げるのははじめてのケースなので、アダプターの部材設計に特殊な考慮を必要とした。

No. 9 大阪万博・シンボルゾーン



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：計画

内容：動詞

掲載号：1970年5月号
建築用途：パビリオン

該当部分

このシンボルゾーンは、EXPO '70の会場計画の特徴であって、会場全体の構成を樹木にたとえれば、シンボルゾーンは幹、それから四方にのびる動く歩動（装置道路）とサブ広場、さらにサブゲートが枝となって会場の基幹となる施設を形成している。サブ広場をとりまいて展開する多様で個性的なパビリオンは、この樹木に咲く花にたとえられる。

基幹施設は多くの観客がそれに沿って流動する動脈であるとともに、テーマの精神の展開の場であり、また個々のパビリオンの多様性を生かしながら全体としての秩序と調和を求めるといふ、基本テーマの理念の表現でもある。

No. 10 大阪万博・シンボルゾーン



各要素の分類

参照対象：パターン [A]
植物

説明対象：計画

内容：動詞 (2)、
形容動詞 (2)

掲載号：1970年5月号
建築用途：パビリオン

該当部分

このシンボルゾーンは、EXPO'70の会場計画の特徴であって、会場全体の構成を樹木にたとえれば、シンボルゾーンは幹、それから四方にのびる動く歩動（装置道路）とサブ広場、さらにサブゲートが枝となって会場の基幹となる施設を形成している。サブ広場をとりまいて展開する多様で個性的なパビリオンは、この樹木に咲く花にたとえられる。

基幹施設は多くの観客がそれに沿って流動する動脈であるとともに、テーマの精神の展開の場であり、また個々のパビリオンの多様性を生かしながら全体としての秩序と調和を求めるといふ、基本テーマの理念の表現でもある。

No. 11 岩窟ホール

各要素の分類



参照対象：パターン [E]

説明対象：建築全体

内容：動詞

掲載号：1970年9月号

建築用途：ホール

該当部分

浅間山の溶岩が流れ着いて固まった鬼押出しの付近は山裾のなだらかな傾斜地だ。

勾配をもった大地のおおらかな線を崩すまいと、必死に大地にへばりつくように身を伏せる建物には曲面がいたるところにある。

曲面のうねりはなぜか大地に似て、大地と溶け合う、そして建物の屋根がスロープとなって大地につながる道筋で、人びとは自然と建築の関係を新しい感覚でとらえなおすきっかけをつかむことができるかも知れない。

No. 12 台北聖心女子大学



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：考え方

内容：動詞

掲載号：1970年10月号
建築用途：大学

該当部分

私たちは1965年から1967年にかけていくつかのキャンパスプランを設計する機会にめぐまれた。ここに発表される台北聖心女子大学、東京聖心インターナショナルスクール、および前に紹介された東京聖心女子大学管理棟（建築文化1967年8月号）である。これらは多少とも共通の課題を含んでおり、共通の意識と方法の上にデザインされていった。それは次のような基本的認識に端を発している。すなわち私たちの人間社会の中の複雑な相互交渉のなかにわけ入り、その織りなす“あや”の構造を発見し、その美しさを空間において表現することが重要だということであった。このことによって人びとの間に接触のチャンネルをつくと同時に、人びとの対話の微妙な間隙をひたしたり、時には予期しない火花を発生させたり、さまざまに人間関係を豊かなものにすることができよう。この複雑で長い長い織物は国土のなかを流れ、都市のなかを流れ、そしてキャンパスのなかを流れめぐり、時には太い紐となって要素の間を結びつけ、時には薄い紗となって人びとを包みこみ、また時には綿毛のように自律性の間隙を埋めてゆく。この織物にはところどころに人びとの集まるフォーマルなまたインフォーマルなスペースが縫いこまれており、時には緑の空間がまたあるときは吹抜けにより連続した空間が人びとの突然の出会いをひきおこす。

No. 13 桜台コートビレジ



各要素の分類

参照対象：パターン [A]
植物

説明対象：建築部位

内容：動詞

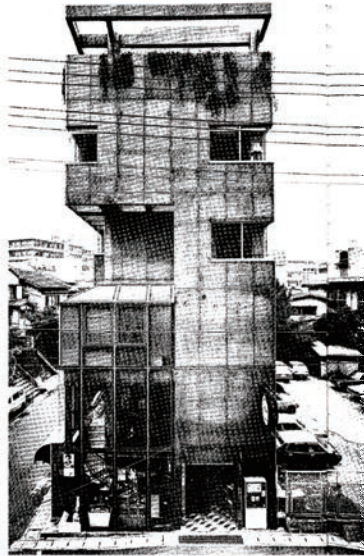
掲載号：1970年11月号
建築用途：集合住宅

該当部分

すでに本誌にも紹介され、まだ記憶に新しい桜台ビレジを横に過ぎて繁みのある小丘をぬけると、斜面にそって足高に構えるコートビレジがみえてくる。下から見上げると、ちょうど斜面から陽の光を求めて背伸びする群棲植物のように各住戸を支えるピアが何本もたち並んでいる。これが訪れるものにとって最初に会う景観である。西斜面のほぼ中央の位置に設けられたステップのある小道を登りはじめると、早や曲折した道筋のはじまりが感ぜられ、地中海沿岸でみかけるヒル・タウンの一場面を想起させる。小道が建物にはさまれて次第に狭く感じられる少し前に、この集合住宅群のシンボルともいえるコンクリートのタワーが仰ぎ見られ、傾度の強い敷地をさらにドラマチックにしたてている。

1980 年

No. 14 仕事場に連なる住宅



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
動物

説明対象：建築全体

内容：なし

掲載号：1980年2月号
建築用途：住宅

該当部分

外壁は仕事場と住まいというふたつの要素を含む建物の性格として、さりげなく仕上げをおさえてありますが、屋上から垂れ下がった蔦の葉が、リビングの中庭の池の面まで届くようになって、住み手の意志が建物の外観にも表われ、住まいの味として、人間の顔の年輪のように暖かみを加えたように思います。（平井保雄）

No. 15 武蔵野相愛幼稚園



各要素の分類

参照対象：パターン [B]
動物

説明対象：建築部位

内容：形容詞

掲載号：1980年7月号

建築用途：幼稚園

該当部分

また建物の中心部を明るくするために三角形の光のシャフトが設けられており、2階の園児用洗面所と、遊戯室正面ステージを照らしている。出来上がって見ると、この幼稚園は誰かが評したように、多くのひよこをかかえた雌鶏の姿に似ていなくもない。ひよこたちを守る外側の羽は堅くて強靱だが、内側の羽毛は柔らかくやさしいのと同じように、この建物もコンクリートの外壁の内側は、園児たちが肌に触れて暖く柔らかい自然の橡甲板が、断熱材を兼ねて張られている。そしてこの建物は2本の脚を大きくふんばって、子供たちが自由自在に出入りできる空間をつくらせている。

No. 16 武蔵野相愛幼稚園



各要素の分類

参照対象：パターン [B]
動物

説明対象：建築部位

内容：形容詞 (2)

掲載号：1980年7月号
建築用途：幼稚園

該当部分

また建物の中心部を明るくするために三角形の光のシャフトが設けられており、2階の園児用洗面所と、遊戯室正面ステージを照らしている。出来上がって見ると、この幼稚園は誰かが評したように、多くのひよこをかかえた雌鶏の姿に似ていなくもない。ひよこたちを守る外側の羽は堅くて強靱だが、内側の羽毛は柔らかくやさしいのと同じように、この建物もコンクリートの外壁の内側は、園児たちが肌に触れて暖く柔らかい自然の桧甲板が、断熱材を兼ねて張られている。そしてこの建物は2本の脚を大きくふんばって、子供たちが自由自在に出入りできる空間をつくっている。

1990 年

No. 17 新高松空港旅客ターミナルビル



各要素の分類

参照対象：パターン [E]

説明対象：建築全体

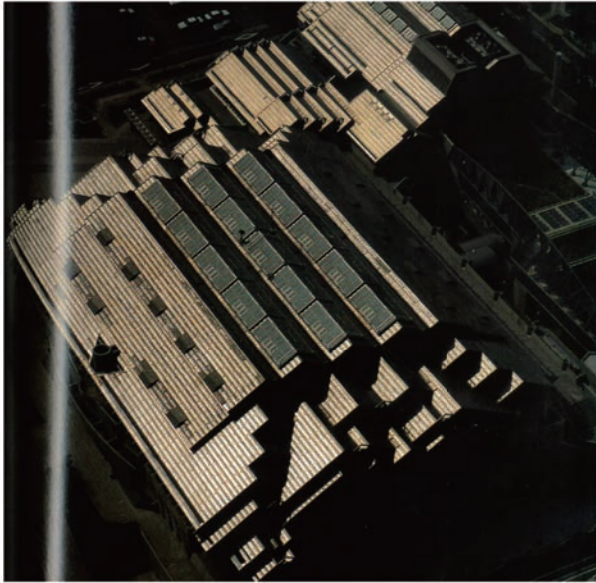
内容：形容詞、形容動詞

掲載号：1990年2月号

建築用途：空港ビル

該当部分

しかしサーリネンのワシントン・ダレス空港は素晴らしい。今世紀のもっとも感動的な建築のひとつである。サーリネンは機能問題に真正面から取り組んできちんとこれを解いた上で、次のように記している。「連邦政府の建物は伝統的に静的なものである。けれどもジェット時代の空港は本質的に非静的なものであり、動きと旅の興奮を表現するものでなければならない。……美しい平原の敷地。建築とはある意味で天と地の間にあるものだ。われわれは、この平原にしっかりと脚を下ろしつつもその上を軽やかに舞うかに見える力強い形態がもっとも望ましいという結論に達した……」。



各要素の分類

参照対象：パターン [A]
動物

説明対象：建築全体

内容：動詞、形容詞

掲載号：1990年4月号

建築用途：武道競技場

該当部分

外観は、屋根をステンレスと鉛の複合板で葺き重ねてテクスチャとアクセントをつけ、屋根裏換気口を段差部に取り付けることで、大面積に対して変化とリズムを与えようとした。表皮としての鉛の選択は、屋根部を少しでも軽く見せたいと考え、やがて変わるだろう鉛鍍の灰白色にイメージを託している。最も苦慮したのは菱形パネルで、スチール亜鉛メッキの上にフッ素樹脂で塗装している。灰紫系の色彩をベースにしたメタリック塗装で、日照時間によって色彩が変化する。午前中はシルバーが反射し、ほぼ全体が銀色に輝く。日中から夕方、あるいは影側は紫色を帯びてくる。さらに日が落ちかけると濃度が増し、全体も重く沈み、異形の怪物が睨りにつこうとしているかのようだ。繰り返し色出しし、テストした成果が実現したと思っている。

No. 19 国際展示水の館



各要素の分類

参照対象：パターン [B]
動物

説明対象：平面計画

内容：動詞

掲載号：1990年5月号
建築用途：パビリオン

該当部分

建物は、街のエリアへの観客動線である「祭りの大通り」に面して両腕を広げて池を包み込むような平面形をしており、人びとを迎え入れる2本の橋を池中央に設けた。

各要素の分類



参照対象：パターン [B]
その他

説明対象：建築全体

内容：動詞

掲載号：1990年10月号
建築用途：文化会館

該当部分

な建物が存在する。われわれの案は、「MEDIA SHIPS ON THE SEINE」と名付けられている。全体を調光液晶ガラスの皮膜で包み、その中にさまざまな機能、空間、装置が浮かぶように配置されている。建物自体が、TOKYOから漂ってきて、情報や文化、メディアを発信している宇宙船というイメージである。それは、何かの電子機器、あるいは生物の細胞のようにも感じられよう。外観からは、浸透膜に包まれた細胞の中の核のように、特に3つの気泡状のシルエットが見える。学ぶ、話す(集う)、食べるという人の基本的な機能に対応するように、それは図書館、学術研究ゾーンに位置し、建物すべての端末やネットワークの中心でもある情報コントロール室や、最上階のVIP室や展望レストランであったりする。レストランの外皮も、液晶スクリーンを用い、内部にさまざまな映像を映すことが可能なシアターレストランである。

No. 21 武藤工業本社ビル



各要素の分類

参照対象：パターン [E]

説明対象：考え方

内容：動詞

掲載号：1990年12月号

建築用途：オフィスビル

該当部分

一である。外はダークで固く、内に明るく開ける空間は、われわれを力強く励ました。黒檀と象牙の鍵盤が相まって美しいメロディーを奏でるピアノのように、内部と外部が明暗反転しながらいきいきとしたハーモニーを醸し出す。そんな建築を夢想した。

2000 年

No. 22 早稲田大学大久保キャンパス新研究棟



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
動物

説明対象：建築全体

内容：動詞

掲載号：2000年1月号
建築用途：大学

該当部分

第Ⅰ期に比べ、実験より研究に重点のおかれた内部機能や、室同士の連結、分離を想定した隔壁のない構造など、性格の異なる部分も各所にあるが、全体としてはまさに並び立つ兄弟のようにデザインされている（本誌9808解説参照）。またふたつの棟の間にあたる部分の、つなぎつつ切断する空間である、アトリウムのデザインは、今後想定されているキャンパス内の各棟の連結に際して、新たな規範となっていくものと考えている。

各要素の分類



参照対象：パターン [C]

説明対象：構造

内容：形容詞、形容動詞

掲載号：2000年2月号

建築用途：研究所

該当部分

天女の羽衣（＝大屋根）が木々（柱・梁）に舞い降りたようにイメージをもとに構造計画（図2）が進められた。

このように、デザインの基となるイメージは、非常に曖昧で儚いものである。それを具現化する作業の前に、われわれは常に（共通理解となる視覚表現として）スケッチを描き、コンセプトをつくり上げる。そして、「シンプル」かつ「ロジカル」にすべてのデザインステージの中で発展させていく。デザインに行き詰まったときは、コンセプトに立ち返り、新たな方向性を見出す。当然あらゆるもの（構造計画も同様）に新鮮な刺激を与え、イメージから現実化への過程の中で陳腐化することなく、詩的に進められる。決して建物の完成が終わりではない、われわれにとっては新たな出発点なのである。

各要素の分類



参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：建築部位

内容：形容動詞

掲載号：2000年2月号
建築用途：研究所

該当部分

そこで、木々の根に相当する地下部分は強固な（自然採光／換気を可能にした上で）RC造とし、地上に表れる柱は同径の丸パイプにより逆V字とし、地震時の揺れを吸収するため、南側のみ補強材を加えてトライアングル型とした。大梁は応力の流れを視覚的に表すようカテナリー曲線を描き、軽快な線材によって構成され、水平距離で29.7mのスパンを可能にしている。また羽衣に喩えられる大屋根は、鋼製デッキを角パイプで挟み厚さ19cm（最大12mスパン）で構成されている。さらに柱からオフセットされた鋼製のフロントマリオンは、カーテンウォールへの風圧力に耐えると共に大屋根の撓みおよび回転止めとして働いている。



各要素の分類

参照対象：パターン [E]

説明対象：建築部位

内容：動詞

掲載号：2000年3月号

建築用途：劇場

該当部分

●呼吸するガラス面／ダブルガラスルーバー

ダブルガラスルーバーは、リアルタイムで計測された室内外のエンタルピー・風速・雨量を変数として、自動制御で呼吸するように開閉する。室外のエンタルピーが低いときは窓を開けて外気を取り込み、風が強くなったり、雨が降るとウイングごとに設定された閾値に応じて窓が順次閉まり始める。各窓（上下段別、2スパン1ユニット）は時間をずらしながら30分に1回開度が変わる。一定以上の強風／降雨、空調機のONですべての窓は一斉に閉まる。また、性能試験により、耐風圧240N/m²、水密35kg/m²、気密2等級を確認している。

No. 26 茨城県市町村会館



各要素の分類

参照対象：パターン [E]

説明対象：建築部位

内容：動詞

掲載号：2000年4月号

建築用途：市町村会館

該当部分

● 自然と呼吸するダブルスキン

呼吸する「自然通風型ダブルスキーカーテンウォール」は、外部側のフロートガラス $t=10\text{mm}$ と、内部側の倍強度Low-eペアガラス $t=6+A15+6\text{mm}$ の2枚のスキンで構成される。スキン間の約600mmの自然通風スペースは、メンテナンスのために歩行可能で、光センサー制御の外部仕様の電動ブラインド $w=80\text{mm}$ により光を熱に変換し、外スキンの層間の自然通風口から排出する。内スキンは内倒し横引方式で、一般事務室同様に中間期には「アトリウム通風系」で自然換気可能である。冬期の室内からの熱損失は、内部Low-eペアガラスを通常と表裏を逆に使うことによってわずかなるため、あえて冬期もスキン間を密閉せず、通年の換気・通風と季節ごとの切替の省力化に配慮した

(六鹿正治・杉丸淳／日本設計)

No. 27 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス デザイン・スタジオ棟



各要素の分類

参照対象：パターン [E]

説明対象：空間

内容：動詞

掲載号：2000年6月号

建築用途：大学

該当部分

えさせていただくことになった。キャンパスのマスタープランで郊外的位置づけをされた東側緑地の中に自然環境と対話できる住宅的雰囲気をつくることで、にぎわいのある中央ゾーンと互いに補完し合うリゾート・コテージのような小研究所群を、というコンセプトの核心部分は義塾の高橋潤二郎理事を中心とした熱心な教員の皆さんとの議論の中から生まれた。24時間稼働の積極的なクリエイテ

No. 28 師勝町総合福祉センター「もえの丘」

各要素の分類



参照対象：パターン [A]
その他

説明対象：建築全体

内容：形容動詞

掲載号：2000年7月号
建築用途：福祉施設

該当部分

列として直訳している。したがってプログラムにおけるシステムの欠如をそっくり受諾している。ゆえに設計は「手法」ではなく「処法」に近い。プログラムの思想たるところの厳然たる「系の不在」を実現するにあたり、随所に生じる細いほころびや小さな裂け目を、その都度、場当たりに、しかるに丹念に繕う、いわば一種の臨床法を採用し、その限定的な処法の精度の維持にのみ腐心した。プログラムの不足や不備や不在が、それゆえに論理的に蓄えるであろう機動力という逆説を構想の根幹として見据えるに至った計画者、すなわち構想の核心に構想の不在を描き切った幻視者の思考をおおよそは理解することができたからである。「綴る」「編む」「織る」「繻く」などの動詞が作業を誘導した。小さな丘の中央で2本の触手がゆるやかに戯れ合うような建築が完成した。

No. 29 アクアマリンふくしま



各要素の分類

参照対象：パターン [E]

説明対象：建築部位

内容：なし

掲載号：2000年9月号
建築用途：水族館兼学習施設

該当部分

工業港の風景の中で

コンクリートの護岸と石炭ヤード、そして巨大なプラントと貨物船。計画地の西側には典型的な工業港の風景が広がる。エントランスホールのガラスシェルターは、大らかなカーブを描くシルエットと周囲に溶け込む透明感で、こうした工業港の風景と対峙しながら、海の雄大さと自然の波長に応答する。そのフォルムとガラスの素材感には、シャープさと共に、光や空気を呼吸するような柔らかさが与えられ、インダストリアルなクールさと有機的な柔らかさを重ね合わせることで、自然と人工という対立的なイメージを昇華した新たな建築の様相が意図されている。

No. 30 阿龍山端專寺位牌堂



各要素の分類

参照対象：パターン [B]
動物

説明対象：空間

内容：なし

掲載号：2000年11月号

建築用途：位牌堂

該当部分

私は、この御堂内部が母の胎内に抱かれるような空間となることを求めた。なぜなら、この空間に包まれることで、母方の血脈を今に感じ、自分たちが生を受けて此の世に存在することに、感謝の念が生まれるようにと考えたからだ。したがって、内部は子宮内の羊水に胎児が浮かぶような浮遊感を漂わせている。内なる世界は天上へとつながり、此岸と彼岸とは結びつく。外部から内部へと向かう移動。それは、此岸から彼岸へと誘われる移動でもある。

No. 31 むいかいち温泉「ゆ・ら・ら」



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
動物

説明対象：建築全体

内容：動詞

掲載号：2000年12月号
建築用途：温泉施設

該当部分

この建物は、療養や健康のためのプールやサウナなどの新しい型の西洋的風景のコンプレックスと、露天風呂付きのきわめて日本的な風呂を回遊して楽しんでもらうものの二面がある。そこで、風の動き、自然の見方、見せ方などおのおのにキャラクターをもった〈ヒーリングスペース〉をつくり出すことが重要だと考えた。空間の切り取り方に、西洋と東洋ということを表現し、風呂を楽しむと同時に空間をトンボのように楽しんでもらいたいと思った。

No. 32 RETAIL SPACE-1 ザ・ギンザ金沢店



各要素の分類

参照対象：パターン [E]
生物

説明対象：建築全体

内容：動詞

掲載号：2000年12月号

建築用途：ショップ

該当部分

まず従来の店舗のイメージを払拭するために透明感を強調し、大理石の石切場を背景に服が彫刻的に見えるように、ピアンコ・カラーの端材を使った木端積みの壁を建てその前にボディーを配置した。壁の裂け目は寓意的にケイブとして扱われ、内部は白く輝く布のドレープで被われて靴の売場となっている。手前の服のハンギング・ブランチは地面から生えたようにガラスの厚い壁で支えられ、規則的なガラスの壁と大理石のキュービックな展示台のレイアウトがあたかもミニマルアートのように見えて、最近のファッションがもつ感受性や精神性に呼応するようデザインした。

(押野見邦英)

2010 年

No.33 Carina store



各要素の分類

参照対象：パターン [E]

説明対象：建築部位

内容：なし

掲載号：2010年1月号

建築用途：ショップ

該当部分

妹島 「Carina store」は、単純な形をしていますが、テクスチャーを持つことで周りと呼吸している感じが出るかなと考えました。実際にはガラスで外と中は切られているけれど、環境との関係から考えればメッシュとガラスが同等のもので、そのふたつがひとつとなって境界面をつくっていると考えています。後ろも全部ガラスとメッシュにすることで、

No. 34 國學院大學渋谷キャンパス再開発計画



各要素の分類

参照対象：パターン [E]

説明対象：建築全体

内容：動詞 (2)

掲載号：2010 年 1 月号

建築用途：大学

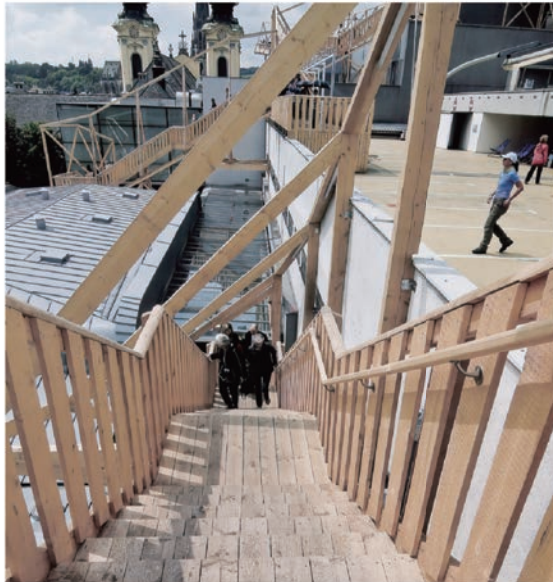
該当部分

環境と呼応するエコキャンパス

國學院大學では「環境配慮型キャンパス」を実現させるため、日本の伝統的な建築の作法に立ち返り、高密度な都市にあっても極力自然の力を活用して、エネルギー消費の少ない快適で長寿命な校舎とすることを目標とした。高気密・高断熱を追求した建物は、人にやさしくない気がしていた。もし建物の外皮が自ら呼吸したら、周辺環境と融和し、居住環境は格段に向上すると思い、自然の風に呼吸して息をするサッシを開発した。2～3m/s以上の風によって窓は自然に閉まり、風が弱まると窓は自ら再び開く動作をする。窓を開放する力は、ダンパー等により押し出していないので、ワンタッチ／ワンレバーで開閉でき、自然風の存在をユーザー自身が視認できる。

(朝田志郎／日建設計)

No. 35 リンツ・スーパー・ブランチ



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：建築全体

内容：動詞 (2)

掲載号：2010年2月号
建築用途：空中通路

該当部分

観賞用の通路は、それぞれの建物の屋上の高低差を安全に乗り越えていかななくてはならない。そこで、木製トラスのフレームの中に床を持つ橋を提案した。このトラス橋の形状は固定的ではなく、屋上の状態や不確定な要素でもあるアート作品の内容に合わせて変形しながら成長する、巨大な樹木の枝（スーパーブランチ）を連想させる。たとえば「天国への階段」と



各要素の分類

参照対象：パターン [B]
植物

説明対象：計画

内容：形容動詞 (2)

掲載号：2010 年 2 月号

建築用途：集合住宅

該当部分

独立させながら繋ぐ多様な内部空間

その結果、住戸は、地階を除き四面外気に面し、戸建て住宅と同様、通風採光上良質な居住性を得ている。また、どの住戸も南側斜面への眺望を享受しつつ、鈍角による平面構成、さまざまな天井高さ、立体的に絡み合う住戸割り等により、多様で有機的な住戸空間とした。三つ葉のそれぞれの葉が独立しつつも幹で繋がっている。そのような暮らしの種を斜面に蒔いた。

(早草睦恵)



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：空間

内容：形容動詞 (2)

掲載号：2010年2月号
建築用途：集合住宅

該当部分

「Y-3」が「綾瀬」と大きく異なるのは、外周がオープンであること。求めたのはガラスによるクリアな透明感というよりは、既成品のアルミサッシがスラブ間にラフに取り付けられることによるある種の軽さ、そしてそこから生じる開放感である。壁とスラブの構造体だけが街に投げ出されたような、無造作で自由な場所。例えて言えば、さまざまな鳥たちが集まる「樹木」のような場所。都市という大きな「森」の中に複数の居場所があって、個人の公と私が無意識に繋がっている状態の一断面、ストリートとハウスの中間のような場所。そんな場所に冒頭で言った都市の新しいプライバシーが生まれるのではないかと考えている。



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：建築部位

内容：動詞

掲載号：2010 年 3 月号
建築用途：美術館

該当部分

既存の建築と素材について

アルミ、硝子、コンクリートなどの今日的な素材を用いると同時に、木、土、石、苔、瓦などの数寄屋建築素材を用い、多彩な材料で構成している。そして、それらが本来具えている素材の性質や美しさを素直に表出し、巧みなバランスで調和するよう計画した。エントランスポーチは既存の建築部分を極力残しつつ、敷瓦や土間三和土、御影石縁石などを施し、既存の間知石を覆い隠すように根府川石の巨石を乱積みにした。奈良で製作した特注品の敷瓦は、300mm角、30mmの厚みがあり、亀の甲羅のように中央がほんの少し膨らんでいて職人の手作業によって丁寧につくられている。エントランスホールからは、坪庭が正面に広がり、本漆喰で塗られた抽象的な壁面と杉皮黒竹押さえの壁に囲まれて、内部の敷瓦から庭の苔に連続性を持たせた。また、レセプションカウンターやショップは、機能的に過不足のないよう最小限に構成し、家具は無垢のカナダ産ヒバ根目材を用い、十分な存在感を持たせた。ホー

No. 39 バルセロナスイーツアベニューアパートメント



各要素の分類

参照対象：パターン [E]

説明対象：非実体

内容：動詞

掲載号：2010年4月号

建築用途：オフィスビル

該当部分

一体化される。波は少しずつすれながら、都市の表面にうねりを生成し、表面は桜色のパール入り塗装が施され、光の移ろいと共に表情を変える。波に内包されたバルコニーは、外部空間ながら親密な空間を提供している。風景は波型に切り取られ、再構成されながら建築内部に投影される。細やかな波模様を内包した三種類のガラスを複合した光庭のパネルは、光を屈折、反射、増幅させながらリズムを与え、中を移動する人の動きに付随して、せせらぎに戯れているような光を生成する。



各要素の分類

参照対象：パターン [E]

説明対象：建築全体

内容：形容動詞

掲載号：2010年5月号

建築用途：社屋

該当部分

今回の場合、執務エリアと倉庫エリアを頻繁に行き来する使い方から平屋が妥当と考えたが、しかし高層ビルの1層を無作為に抜き取ったような均質さは、いかにもふさわしくないように思えた。そこでまず背後の家並みに合わせるよう短冊状の家型に分節し、天井高やスパン、色などを変えた。隣棟との高低差によってハイサイドライトをつくり、屋根を反射面と捉えたライトシェルフで執務エリアを明るくした。一方で、隣接する倉庫エリアは紫外線を嫌うため窓を設けず暗くした。窓のない倉庫エリアでも自然排煙を確保するため、窓のある隣の執務エリアに向け天井面を持ち上げ、区画を形成すべき部位では逆に下げた。その結果、踊る家型とも言うべき賑やかな家並みが生まれた。

No. 41 TASAKI 銀座本店



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
その他

説明対象：建築部位

内容：なし

掲載号：2010年5月号
建築用途：店舗

該当部分

この界限には多種多様のファサードが並んでおり、全体がモザイクのように混沌とした状態になっている。そんな中で、個性のようなものをあまりはっきりさせすぎると、かえって街並みのモザイクを構成するピースのひとつにしか見えなくなる恐れがあった。そこで今回は、少しずつ違うものをただひたすら並べることで、生命の種のように全体としての個性をつくりつつも、同時に、その中の限界のない多様性によって（もちろん実際は有限だが）、その個性の根拠がどこにあるか分からないような弱さをつくり出そうとしたわけだ。



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：建築全体

内容：動詞

掲載号：2010年5月号
建築用途：仮説ドーム

該当部分

具体的には厚み1.6mmの航空合板を「ワッパ」状に曲げ、構成単位としている。各「ワッパ」はまったく同一サイズの底の抜けた紙コップのようなコーン形状をしていて、これによって全体として球面状のドーム型になる。ワッパは適度に柔らかく、幾何学上、下辺に近づくに従って縦方向に伸びた楕円となって重力に抵抗することになるが、それなりに各部位ごとに要求される形となることができる。また各ワッパは約480gと非常に軽く（建築全体でも98kg）、建築の自重を抑え構造上の利点となっているが、さらに各ワッパ同士が書類留用クリップで簡易に接合されていることと合わせて、スピーディーな自力建設を可能とするメリットもある（特に解体には5分もかからない）。同一のコーン形状であるため、分解すればスタッキングも可能で、運搬や収蔵も容易である。完成したドームは、人が触ればゼリーののように震えるし、風が吹いても樹木のようにゆっくりとゆれている。敷地形状に多少の凹凸があっても、それなりにノックタリと自身を変形させて平気で建っている。

No. 43 中国 2010 年 上海万博日本館

各要素の分類



参照対象：パターン [E]

説明対象：建築部位

内容：動詞

掲載号：2010 年 5 月号

建築用途：パビリオン

該当部分

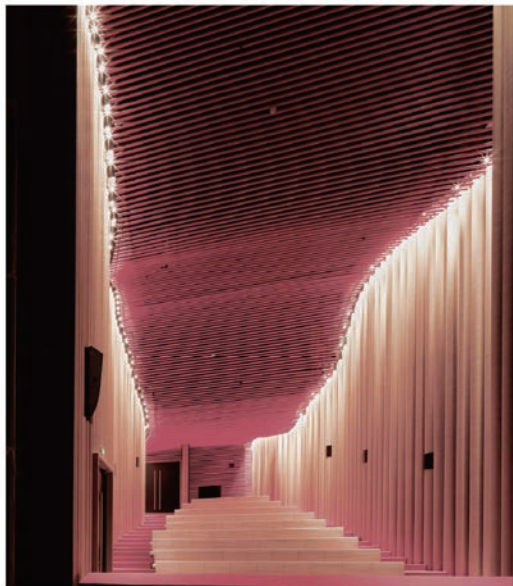
「生命体のように呼吸する建築」

記憶に残るパビリオンの外観として、バイオモルフィック（生命体）をイメージするドームは、「エコチューブ」と名付けられたドーナツのような穴が6つ穿たれている（トポロジーにおける6次元トーラス）。一葉双曲線面のダブルコーン形状の穴はドームを支える柱であり、末広がりな柱形状による地盤への分散荷重は、薄膜太陽電池と一体化した軽量膜（発電する膜）とともに、上海特有の軟弱地盤上のフローティング構造を可能としている。

環境デザイン装置でもある「エコチューブ」を通じて「光」「水」「風（空気）」といった自然エネルギーを呼吸するように建物内部に取り込むことにより環境負荷低減を図っている。2層吹き抜けの展示空間は、5本のエコチューブにより、ダイナミックな迫力のある空間を創り出す。外観、室内展示空間、構造そして環境デザインのすべてが融合した環境実験型パビリオンである。

（小林利彦／日本設計）

No. 44 中国 2010 年 上海万博紙の劇場 日本産業館メイン展示



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
動物

説明対象：計画

内容：動詞

掲載号：2010 年 5 月号
建築用途：パビリオン

該当部分

この劇場は、日本産業館のテーマのひとつ「パルス」を劇場運営のコンセプトとして、映像展示をする施設である。「パルス」、つまり観客の動きを「脈動」するように流すため、心臓の左右心房のように、左右対称にふたつの70人用ホールを並置させた。

No. 45 森のカフェ



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：計画

内容：動詞、形容動詞

掲載号：2010年6月号

建築用途：カフェ

該当部分

葉っぱのようなかたちのスペースが120°で分岐を繰り返す生成的なカフェの平面型は、建築に森を引き込んで絡み合わせようという試みであり、隣接する動物エリアの計画に関連付けられている。

No. 46 森のカフェ



各要素の分類

参照対象：パターン [B]
植物

説明対象：建築部位

内容：形容動詞

掲載号：2010年6月号

建築用途：カフェ

該当部分

7枚の葉っぱが寄り集まってできたような有機的な屋根のかたちは、地形の起伏に富んだ牧場のそこから眺められ、グリーン牧場がめざしている「環境牧場」という大きなストーリーをナビゲートしていくためのロゴタイプのような役割を担っている。

No. 47 森のカフェ



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：空間

内容：形容動詞

掲載号：2010年6月号
建築用途：カフェ

該当部分

カフェの周辺にはシラカバ、シャラ、ポプラ、モミジといった落葉樹を配し、深い軒と相まって、できるだけエネルギーを使わないナチュラルでパッシブな環境が保てるように配慮されている。開口部を開け放てば樹木の下のような快適な半屋外の空間となり、雨の日でも軒に守られ解放することができる。また冬季にはペレットストーブの炎を囲んで冬の牧場を楽しむことができる。



各要素の分類

参照対象：パターン [E]

説明対象：建築部位

内容：形容動詞

掲載号：2010年7月号
建築用途：美術館・図書館

該当部分

照明器具も、この隙間に設けられたスポットライトが基本的な照度を担保しつつ、3種類のペンダントライトが様々な高さに吊り下げられ、まるで光の粒子が宙を舞っているような書物の森の風景をつくり出している。

No. 49 練馬のアパートメント



各要素の分類

参照対象：パターン [E]

説明対象：考え方

内容：動詞

掲載号：2010年8月号

建築用途：アパート

該当部分

都市に生きる方法としての集合住宅

これらの大きなテラスは、変な言い方だが、各住戸がいろいろな種類の巨大なベットと暮らしているような状態だと思う。自分のもののようで、自分の思い通りにならないものに寄り添って暮らす。自分がその空間を使いこなしてみようという、住人の主体性が求められる。凌駕しないし凌駕されない、住む人間を試すようなテラスの空間によって、生活が都市に寄り添い、身体が都市空間に出ていくような状態を目指した。僕は集合住宅の空間を、都市に生きるための方法として考えてみたかった。（長谷川豪）

No. 50 one roof apartment



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
その他

説明対象：考え方

内容：なし

掲載号：2010年8月号
建築用途：アパート

該当部分

自然の中に住むこと

樹上の住居や洞窟住居のように、自然環境に寄り添って住むような住まい方がある。自然は、人間のことを考えてその姿になったわけではないから、そこには生活する場所をその都度発見するような豊かさがある。こうした豊かさを現代の住居で再現することは可能か。自然物のような生成原理を持った建築を考え始めるきっかけはそういうところにあった。ふたつの集合住宅でもそれは変わらな



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
動物

説明対象：建築全体

内容：形容詞

掲載号：2010年8月号
建築用途：店舗、事務所、共同住宅

該当部分

吉祥寺NEST

敷地は吉祥寺駅西南エリア，井の頭通りに直交し井の頭公園を突っ切る素晴らしいケヤキ並木に面している。老朽化した第一生命ビルを建て替えるにあたり，立地を生かすべく，生保オフィスに加え店舗と賃貸住居からなる複合施設が企画された。ただ問題は北側に広がる住居専用地域のために北側斜線と日影規制によって二辺が大きく削がれ，特に西北面はその角度が緩く甲虫の背のようなシルエットが余儀なくされることである。下階に店舗とオフィスを重ね住居を上に乗せるのが自然であるが，斜線によって生じる極端な三角形断面を考慮すると，たとえば小さなユニットを積層するような手法は成立しない。第一生命保険の梅垣春記さんという



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
その他

説明対象：非実体

内容：動詞

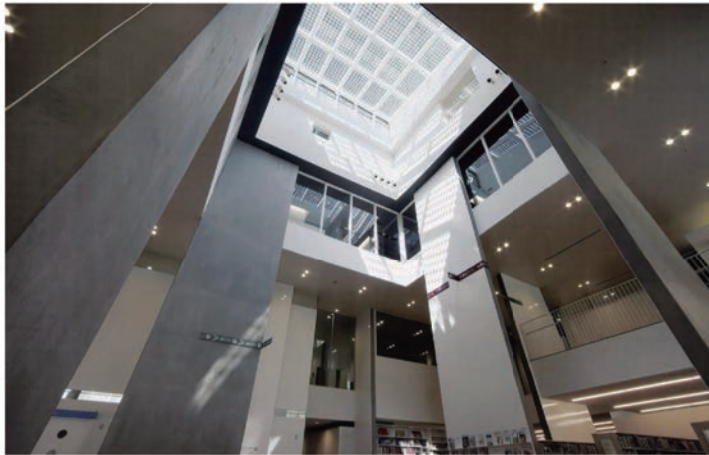
掲載号：2010年9月号

建築用途：大学

該当部分

物理空間にセンサーやプロジェクターなどを後から取り付けた事例はたくさんありますが、生物の神経系のように、その誕生の時点から情報系が建築空間と融合した例はまだなく、建築と情報の乖離は大きいですね。冷暖房的省エネ管理やセキュリティシステムなどで、部分的実装の例はありますが、ジェネリックな拡張性のある情報の入出力・通信系と建築が一体になっているとはまだ言えません。われわれの生きている空間は物理空間だけではあり得なくて、多くのアクティビティ（例えば情報検索やソーシャルコミュニケーション）はサイバースペースで行われているのです。従って、物理的建築空間だけでは、これからの人間活動空間デザインは語れないです。

各要素の分類



参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：非実体

内容：なし

掲載号：2010年10月号
建築用途：市民交流センター

該当部分

最初に現地を訪れた時に街の密度の薄さと建物の低さ、そして周辺の穏やかな風景がとても印象に残った。私たちの提案はまず軒の高さを抑えること（塩尻市全体との関係）、周辺住宅のスケールと内部空間の連続（近隣との関係）、公園のように気軽に立ち寄れる施設（自然性）であることを骨格にすえた。その具体案として、「壁柱」という薄い板状の構造体が100本近く建つことに加え大きなトップライトを持つ4つの吹き抜けを設け、「街」のような密度と「森」のような風景をこの街の新しいシンボルとして提案したかった。

No. 54 大阪富国生命ビル



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：建築全体

内容：なし

掲載号：2010年12月号
建築用途：オフィスビル

該当部分

DP このプロジェクトはタワー、それも巨大なものを垂直に建てようというプロジェクトでした。構想では、大阪のアトラクティブな土地のコンテキストに建つ建物という状況を、最も生き生きして直立している自然物である樹木になぞらえています。つまり、建物のシルエットは大樹の形態に相似しており、タワーの低層部は大樹の根元のように末広がりになっています。このタワーがその足元に根を伸ばしていく時に、地下部分の構造体と、その上に積層するスーパー・ストラクチャーとの連携の中で展開していけるのではと考えています。こうした複

No.55 Small Atelier



各要素の分類

参照対象：パターン [E]

説明対象：建築部位

内容：形容動詞

掲載号：2010年12月号

建築用途：離れ

該当部分

壁の前に佇むドア

この計画において、意識の上での空間の奥行きをつくり出している「ドア」のディテールは、とても重要である。通常、三方枠などの中にドアを付け、壁よりチリを出し納める。そうするとドアが壁というか建築に取り込まれる感覚になる。今回はその様な感覚を回避したいと考えた。なぜならドアの向こう側へ広がる意識の空間が減ってしまうように感じたからである。そこでドアが壁の前に静かに佇んでいるような状態をつくらうと考えた。そのためにドア厚の小口が壁に覆い被さるディテールとした。するとドアが壁の前にスッと立っている感覚となる。小口を壁に被せると、通常丁番は90度までしか開かない。それを回避する為にドリルインヒンジという特殊丁番を使用した。またこの丁番としたことで、よりドアが違う佇まいを獲得することができた。（五十嵐淳）

2020 年

No. 56 高田松原津波復興記念公園 国営追悼祈念施設

各要素の分類



参照対象：パターン [A]
動物

説明対象：土地

内容：動詞

掲載号：2020年1月号
建築用途：公園

該当部分

全体構想については、ほぼこれがすべてである。後は施設も公園も、このふたつの包摂線とふたつの軸線が浮かび上がるように組み上げればよい。柔らかく包み込む「ふたつの包摂線」は母性的なもの、意志的な「ふたつの軸線」は父性的なもの、と見ることもできる。

No. 57 犬島ホッピーバー



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
動物

説明対象：建築部位

内容：動詞

掲載号：2020年1月号
建築用途：バー

該当部分

ひとつひとつが小さな魚のような形のテーブル（設計：妹島和世建築設計事務所）は、室内いっぱいに広がり自由に泳いでいるようであったり、群をなして大テーブルのようになり、1列に並んでリングを形づくったり、さまざまな人の集まり方をつくる。

No. 58 釜石市民体育館



各要素の分類

参照対象：パターン [E]

説明対象：空間

内容：動詞

掲載号：2020年3月号

建築用途：市民体育館

該当部分

自然と光、地形に抱かれた屋内広場

——釜石市民体育館

プロバスケットボールチームの公式戦も可能なアリーナを観覧席やホワイエ、ロッカールームなどの軒庇空間が取り囲むような構成。アリーナは、500mm角のPCaPC柱と、鉄骨造の張弦梁による43.2×50.4mmの大空間。その構造体を半透明のポリカーボネートで囲み、自然光で明るい空間とした。周囲のロッカールームや倉庫は鉄筋コンクリート造とし、その上の観覧席は、東側の線路や北側の道路と同じような高さにすることで、全周に開けた開放的な構成になっている。復興の軸を受ける正面は、軒高の高い木仕上げの庇下空間と、開放可能な折戸により、外部との一体利用可能な設えとした。アリーナの中央に立つと、360度の自然と光に囲まれ、リアス式海岸特有の入り組んだ地形に抱かれたような空間となっている。

No. 59 釜石鵜住居復興スタジアム



各要素の分類

参照対象：パターン [A]
動物

説明対象：建築部位

内容：動詞、形容動詞

掲載号：2020年3月号

建築用途：スタジアム

該当部分

復興のシンボル

しなやかで力強さを持つメインスタンドの屋根は、震災からの復興のシンボルとして、釜石の原風景を象徴する翼を広げ飛び立つ鳥の姿や、船の帆や大漁旗をイメージしている。構造材の下面に膜を設置する工法で、プロジェクションマッピングや照明により屋根が浮かび上がり、イベント時の演出も可能な計画としている。（永廣正邦＋石成雅人／梓設計）

No. 60 ホテルロイヤルクラシック大阪



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
動物

説明対象：建築部位

内容：形容動詞

掲載号：2020年3月号
建築用途：ホテル

該当部分

210×55mm（見付け・見込み）のアルミフィンのユニットを、見付方向に1,200mm、見込み方向に240mmピッチで、2枚から5枚をランダムに重層させ、それによってカーテンウォールに雲や霧のような自然現象を想起させる揺らぎを与えた。村野が試行を続けた、小さな粒子の集積による、やわらかで女性的なものへの挑戦——連続破風はその典型である——を、薄いアルミフィンという粒子を用いて、僕なりの流儀で継承した。吉田の歌舞伎座と村野の新歌舞伎座という、ふたりの「和の巨匠」の対極的な作品に関わることで、村野の方法の本質を、自分なりに発見することができ、村野への新たな敬意と親近感が芽生えるのを感じた。

各要素の分類



参照対象：パターン [D]
動物

説明対象：空間

内容：なし

掲載号：2020年3月号
建築用途：図書館

該当部分

込む。また、この建築は、周辺の騒音が内部に届かぬよう、遮音機能の高い外郭で覆われている。室内側は皮膜のようなエキスポンドメタル越しに建築のしぐみ（骨組）が垣間見え、床染み出し空調システムが、穏やかに室内環境を整える。かつて200万年前、この地を回遊していたアキシマクジラ（学名：エスクリクティウス・アキシマエンシス）の“胎内”にいるような、ワンルーフ・ワンルームの空間である。建築の愛称である「アキシマエンシス」とは“昭島（産）の”という意味である。教育・エンターテイメント・アミューズメントが一体となった、クジラが海原（校庭）を躍動するかのような建築群の提案である。

No. 62 アキシマエンス

各要素の分類



参照対象：パターン [A]
動物

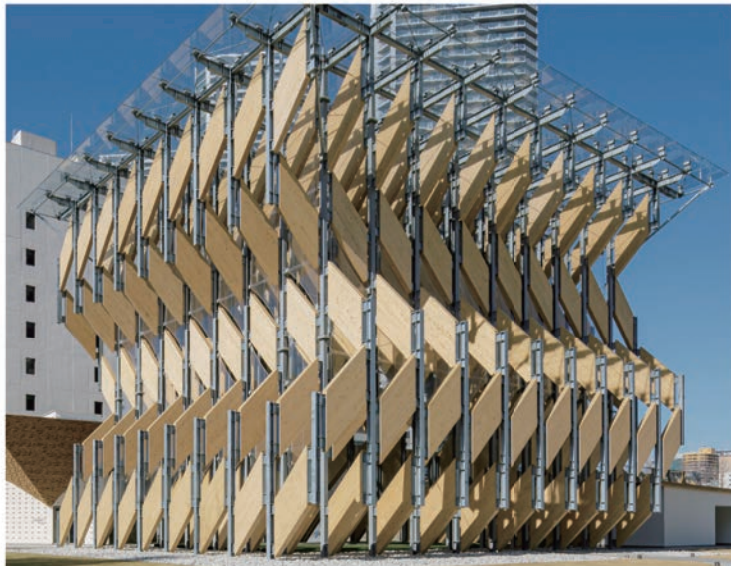
説明対象：建築全体

内容：なし

掲載号：2020年3月号
建築用途：図書館

該当部分

教育・エンターテイメント・アミューズメントが一体となった、クジラが海原（校庭）を躍動するかのような建築群の提案である。



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
動物

説明対象：建築全体

内容：なし

掲載号：2020年3月号

建築用途：パビリオン

該当部分

パビリオン棟内観。鉄骨柱とCLT梁の混構造からなる。菱形のCLT梁は1層上がるごとに90度ずつ回転し、グリッド状のシンプルな平面でありながら魚群のような動きのある見えとなるようにした。

No. 64 四日市市中央緑地スポーツ施設

各要素の分類



参照対象：パターン [E]

説明対象：建築全体

内容：形容詞、形容動詞

掲載号：2020年3月号

建築用途：スポーツ施設

該当部分

「顔つき」・「居心地」がよい建築／象徴性

アリーナは中央緑地の中心に建つ景観として、やわらかな優しい表情、一度目にしたら忘れられない象徴性、市民が親しみを持てる建築にしたいという想いから、機能性を基本にしながらもスポーツの躍動感を表現する造形を考えた。素材は日本有数の工業都市、四日市の産業技術を象徴する金属素材を用い、煌びやかで空の色や自然光により、豊かな表情を魅せる「顔つき」がよい建築としている。多目的室・スポーツフォーラムは中央緑地のすべての施設を利用する市民のロビーとなる。内外が一体となって連続する空間、市民が自由に気軽に立ち寄れる空間とすることを最重要テーマとした。大きな深い軒を持つ庇空間により、市民を呼び込み、内部空間はふたつの屋根を異なる架構・ハイサイドで結ぶつくりとして、構造架構と木格子を介して光や風が抜ける場所とすることで、木漏れ日が降り注ぐ並木を歩いているような「居心地」がよい建築としている。（松尾敬一／久米設計）



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：空間

内容：動詞

掲載号：2020年7月号
建築用途：複合商業施設

該当部分

多様な周辺街区を繋ぐため、この新たな複合施設を貫く半屋外の公共的歩廊空間「バサージュ」を導入した。このバサージュが幹から枝葉のように、テラスや路地、店舗内へと展開し、施設内の多様な活動や周辺街区に行き交う人びとの流れへと結ぶ。さらに周辺の裏原宿の既存街路を構成する階段や緑などが、見え隠れしながら奥へと繋がる空間構成を踏襲し、バサージュの結節点となる各所に、緑に包まれたテラス、オープンな路面店を組み合わせ、ヒューマンスケールの広場を形成した。さらにこれらを地形に合わせて階段状に重層し、奥行のある立体的な街路空間を形成した。このコンセプトは各テナントにも共有され、見通しのよい店舗空間の中に「バサージュ」としての吹き抜けや階段、バスを導入し、変化に富んだネットワークを施設奥深くまで取り込んだ。こうして路面店的な店舗空間



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：考え方

内容：動詞 (2)

掲載号：2020年7月号
建築用途：複合商業施設

該当部分

都市再開発が実現できたと考えています。設計プロセスにおいても、「道の建築」というコンセプトを幹とし、関係者との対話を重ねながら、さまざまな人の考えやアイデアが枝のように絡まり、個のデザインに帰することのない大きな樹に成長できたと思います。「WITH HARAJUKU (ウィズ原宿)」が、原宿の街のように時代の変化を受け入れながら、自然と共に人びとに未永く愛されることを願っています。



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
その他

説明対象：建築部位

内容：形容動詞

掲載号：2020年9月号

建築用途：パビリオン

該当部分

当社グローバルデザイン本部が配置計画から仕上げに至るまで一貫して建築デザインをリードすることで、創業者がロゴに込めた「至誠天日を貫く」（強い信念があればその想いは太陽をも貫き、必ず道は開ける）という信念を受け継ぎ、太陽をモチーフにした円形を生命体のように柔らかな膜材で構成したファサードと、内部にはクルマが人、街、社会と繋がるシームレスなモビリティの未来をつくり上げた。未来的なファサードを抜けると日本的な竹の小路、その先には高さ7mの巨大なデジタル映像が現れるという強烈なコントラストは伝統と革新の対比を体験として伝える巨大な空間装置としてデザインされている。これは日産デザインのテーマである「伝統／Tradition」と「革新／Innovation」の表現である。



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：計画

内容：なし

掲載号：2020年10月号
建築用途：複合型テナントビル

該当部分

植物と人の営みが共存する複合型テナントビル

植物と人の営みが共存する複合型テナントビル「TOKYO MIDORI LABO.」は3面道路に接道した敷地に建つ。開けた環境はよいものの、このエリアの魅力である小さな建物のフットプリントによる街の回遊性を生むスケールからは少し大きな印象を受ける敷地であった。そのため、ボリュームをずらしながら、3面それぞれに正面性や建物内外を繋ぐ出入口や開口部、屋外空間を持つ、多面的な建築を考えた。建物構成としては、敷地中央にEVと階段の縦シャフトを配置し（樹木の幹のように）、その周辺に機能ボリュームを立体的に配置した（樹木の枝葉のように）。



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：計画

内容：形容動詞 (2)

掲載号：2020 年 10 月号
建築用途：複合型テナントビル

該当部分

植物と人の営みが共存する複合型テナントビル

植物と人の営みが共存する複合型テナントビル「TOKYO MIDORI LABO.」は3面道路に接道した敷地に建つ。開けた環境はよいものの、このエリアの魅力である小さな建物のフットプリントによる街の回遊性を生むスケールからは少し大きな印象を受ける敷地であった。そのため、ボリュームをずらしながら、3面それぞれに正面性や建物内外を繋ぐ出入口や開口部、屋外空間を持つ、多面的な建築を考えた。建物構成としては、敷地中央にEVと階段の縦シャフトを配置し(樹木の幹のように)、その周辺に機能ボリュームを立体的に配置した(樹木の枝葉のように)。



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
その他

説明対象：土地

内容：動詞、形容動詞

掲載号：2020年10月号
建築用途：複合型テナントビル

該当部分

設計活動を通してその街の豊かな未来を考える

私たちが日本橋浜町に関わり始めて、4年ほど経過した。その間、安田不動産による、大小10以上の取り組みが新たにスタートした。浜町はまるで生命体のように、複雑に変化を遂げていく。その中で、私たちは設計者であると同時に、ユーザーでもある。時間の経過と共に街の変化を楽しんでいる。気付くと、街の変化と建物を設計する時間がシンクロするようになってきた。少しずつ街の使われ方を意識するようになり、建築や公共空間などハードに波及していることを体感している。その変化を感じながら、敷地や建築を考えることにより、ひとつの建物を設計していても、ある種共犯者のような感覚で、街の風景やストリートとの呼応を意識するようになった。都市に緑の実験拠点を考えることから始まった建物の設計が、都市での人の体験に繋がり、街に面的に広がっている。この街には、新たに集う人や企業の試みを一緒になって育んでいく懐深さがある。その街の未来がより豊かになる協働のきっかけとして建築が作用してほしいと思う。

No. 71 恵比寿公園トイレ



各要素の分類

参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：計画

内容：動詞

掲載号：2020年10月号

建築用途：公共トイレ

該当部分

プリミティブな造形で関係性をデザインする

念頭に置いたのは、建築的なものから距離を置き、遊具やベンチや樹木のように何気なく公園に佇むオブジェクトとしてのあり方。

日本におけるトイレの起源は川に直接用便する「川屋」（廁の語源）と呼ばれるもので、縄文時代早期に遡る。土で固められたもの、木材を結び付けてつくったものなどきわめてプリミティブで質素であった。

No. 72 那須塩原市図書館「みるる」

各要素の分類



参照対象：パターン [D]
植物

説明対象：空間

内容：動詞

掲載号：2020年11月号
建築用途：図書館

該当部分

マルチモーダルな言葉の森

森の中に足を踏み入ると、私たちは、季節や天気といった刻々の変化を感じ、時には、虫や動植物たちによる僅かな機微を察し、そのうつろいをマルチモーダルに受け止め、心を動かします。この図書館では、館内に点在する言葉（アフォリズム）や展示物、活動や人びとによって起こる多様なうつろいを緩やかな境界に表出させ、その機微の重なりの中を自由に歩き回ること、まるで森の中にいるような体験をつくり出しました。この体験の連鎖によって共感覚を生み出し、新しい気づきや学びに繋がることを意図しています。

各要素の分類



参照対象：パターン [D]
その他

説明対象：空間

内容：なし

掲載号：2020年12月号

建築用途：ワークスペース

該当部分

CELLとROJI CORNER

私たちはスタートアップの場として、さらに成長や分裂等を繰り返すCELL（細胞）のようなスペースを考え、15階ではその構築方法に有機的形状を採用した。CELL＝個室が連結して道をつくり、時に大きな場所を形成するが、同じ大きさ、形状は存在しない。屈折した廊下は不均一な光の明暗がつくり出され、見通しが利かない、歩き進むことで新たな発見や偶然な出会いを創出する空間である。仕上がりも有機的な試行に基づき、まだらで不均一なものを選定した。個室内の繋がりは強く、個室同士はベンチャーカフェが世界や外部との繋がりハブとなっている。さらにCICの新しい空間ボキャブラリーとして、多様な用途に変化するROJI CORNERを考え、点在させた。

